

Johann Sebastian Bach

Matthäus Passion

J.S.バッハ マタイ受難曲 対訳

目次		曲番号	ページ	
第Ⅰ部	冒頭合唱	Nr.1	2	
	受難の予言とイエスに対する謀議	Nr.2 - 4b	3	
	ベタニアの香油	Nr.4c - 6	4	
	ユダの裏切り	Nr.7 - 8	5	
	最後の晩餐	Nr.9a -13	6	
	オリーブ山での離反の予告	Nr.14 -17	10	
	ゲッセマネの祈り	Nr.18 -25	11	
	イエス捕縛	Nr.26 -28	15	
	第Ⅰ部 終結コラール	Nr.29	18	
	第Ⅱ部	アリアと合唱	Nr.30	19
		大祭司カイファの審問	Nr.31 -37	19
ペテロの否認		Nr.38a -40	23	
ユダの自殺		Nr.41a -43	24	
総督ピラトの審問		Nr.43 -50d	26	
鞭打ち		Nr.50e -54	30	
ゴルゴタ・十字架		Nr.55 -60	32	
イエスの死		Nr.61a -63b	36	
降架と埋葬		Nr.63c -66	38	
哀悼		Nr.67 -68	41	
あとがきに代えて		43		

テキストについて

自由詩(レチタティーヴォ&アリア、合唱)

全てピカンダー(Picander、本名 Christian Friedrich Henrici,1700-64)による作詞。

『まじめな詩・諧謔的な詩・風刺的な詩(Ernst-Schertzhafte und Satyrische Gedichte)』第2集(1729)に収録。

第1曲・第19曲もコラールを組み込んだ形で書かれている。

彼は失われた「マルコ受難曲」の歌詞も書いている。(「ヨハネ受難曲」の作詞者は不明。)

主要コラール3種

A. Herzliebster Jesu 詞: Johann Heermann(1585-1657)、旋律: Johann Crüger(1598-1662)
Nr.3(第1節)、Nr.19(第3節)、Nr.46(第4節)

B. O Welt, sieh hier dein Leben 詞: Paul Gerhardt(1607-76) 旋律: Heinrich Isaac(1450c.-1517)
Nr.10(第5節)、Nr.37(第3節)
元となった旋律は「Innsbruck, ich muss dich lassen」とされている。

C. O Haupt voll Blut und Wunden 詞: Paul Gerhardt 旋律: Hans Leo Haßler(1562-1612)
Nr.15(第5節)、Nr.17(第6節)、Nr.54(第1・2節)、Nr.62(第9節)
また Nr.44 は旋律のみ使用(詞は Gerhardt の別コラール)

上記以外のコラールは Nr.1, 25, 29, 32, 40 の5曲のみ

当対訳について

曲番号は新バッハ全集の番号 NBA、続く【 】は旧バッハ全集の番号 BWV、()はマタイ福音書の章節番号である。

ドイツ語歌詞のみ、福音書の文、その中の合唱、自由詩のソロ曲、合唱曲、そしてコラール(枠囲み)と5種類のフォントで区別した。

第I部

Nr.1【1】冒頭二重合唱 & コラール

Kommt, ihr Töchter, helft mir klagen,
来たれ 汝ら 娘たちよ 助けよ 私を 訴える・嘆く※

Ch1 来たれ、娘たちよ、私の嘆き・訴えを聴いて！※

Sehet -Wen? -den Bräutigam,
見よ 誰を 花婿を

Ch1 見よ Ch2 -誰を? Ch1 -花婿を。

Seht ihn -Wie? -als wie ein Lamm!
見よ 彼を どんな ~のような 子羊

Ch1 彼を見よ Ch2 -どのような? Ch1 -子羊のような！

<コラール>

詞曲 Nikolaus Decius 「O Lamm Gottes unschuldig」第1節

O Lamm Gottes, unschuldig
おお 子羊よ 神の 罪の無い

おお、神の子羊よ、罪無くして

am Stamm des Kreuzes geschlachtet,
~に 幹 十字の 屠られた

十字の幹に屠られた(御方よ)

Sehet, -Was? -seht die Geduld,
見よ 何を 見よ 忍耐を

Ch1 見よ Ch2 -何を? Ch1 -その忍耐を。

allzeit erfunden geduldig,
常に でっ上げられ 忍耐強い

常に、企みにあっても、耐え忍ばれた

※ erfinden(発明する、でっ上げる)の完了分詞

wiewohl du warest verachtet.
にもかかわらず あなたは (受) 侮られた

あなたはどんなに侮られたにもかかわらず。

Seht -Wohin? -auf unsre Schuld;
留意せよ どこに 私たちの 罪に

Ch1 留意せよ Ch2 -どこに? Ch1 -私たちの罪に。

※ sehen auf 4格(~に注意を向ける)

All' Sünd' hast du getragen,
全ての 罪を (完) あなたは 背負われた

全ての罪をあなたは背負われた。

sonst müssten wir verzagen.
さもなければ ~に違いない 私たちは 絶望する

さもなければ私達は絶望していたに違いない。

Sehet ihn aus Lieb und Huld
見よ 彼を ~から 愛 と 慈しみ

以下 Ch1-2 彼を見よ。愛と慈しみの故に、

(内的動機の aus)

Holz zum Kreuze selber tragen!
木 十字 自ら 背負う

自ら十字の木柱を背負っている(彼を)！

Erbarm dich unser, o Jesu!
憐れんで下さい 私たちを イエスよ

私たちを憐れんでください、おおイエスよ！

※ 普通、helft mir klagenは「私とともに嘆いて下さい」と訳されることが多い。(直訳なら「私が嘆くのを助けて」だ。)しかしここでは、横浜のハルモニークールの団員通信の記事に賛同して、klagenを「嘆く」というよりもむしろ「訴える」と解釈した。この場面は、出来事を間近で見る第1合唱「シオンの娘」は、第2合唱の「信ずる者たち」に対して、ただ単に「イエスを失う悲しみをともにして欲しい」と言っているだけなのだろうか？ その後の対話を見ればわかるように、第1合唱は、イエスの受難そのものの意義を第2合唱に対して「訴えている」のである。そして、最後には第2合唱も第1合唱とともに「十字架上のイエスを見よ」と歌うのである。

受難の予言とイエスに対する謀議

Nr.2【2】(Matthäus 26:1-2)

福音史家: Da Jesus diese Rede vollendet hatte, sprach er zu seinen Jüngern:

イエスは この 言葉を 終えた (完) 言った 彼は 彼の 弟子たちに

イエスはこれらの言葉を語り終えると、弟子たちに言った。

イエス: Ihr wisset, dass nach zweien Tagen Ostern wird,

お前たちは 知っている (接) 後 ※ 2日 過越 ～になる ※ wissen 2複現・接続法 ※ 古い録音では zween Tagen

お前たちも知っている通り、二日後は過越となる。 ※ Ostern には「ユダヤ教の過越」「キリスト教の復活祭」の2つの意味がある。

und des Menschen Sohn wird überantwortet werden, dass er gekreuziget werde.

(接) 人の 子は ～だろう 引き渡される (受) ～のために 彼は 十字架につけられる (受)

そして、人の子はひき渡されるだろう、十字架につけられるために。

Nr.3【3】コラール

詞: Johann Heermann 「Herzliebster Jesu」第1節 旋律: A

Herzliebster Jesu,

心から愛する イエスよ

心より愛するイエスよ、

was hast du verbrochen,

何を (完) あなたは 罪を犯した

何の罪を犯したのですか、

dass man ein solch scharf Urteil hat gesprochen?

(接) (不定代) そのような 厳しい 判決を (完) 言い渡された

そんな厳しい判決を言い渡されたとは？

Was ist die Schuld,

何ですか 罪は

罪は何なのですか、

in was für Missetaten bist du geraten?

～に どのような※ 悪事 (完) あなたは 陥った※

どのような悪事にあなたは陥ったのですか？

※ was für どのような ※ この geraten は原型も同形

Nr.4a【4】(26:3-5)

福音史家: Da versammelten sich die Hohenpriester und Schriftgelehrten und die Ältesten im Volk

そのころ 集まった 祭司長たちは※ 律法学者たちは 長老たちは 民の

そのころ、祭司長たちや律法学者および民の長老たちは、 sich versammeln 集まる

in den Palast des Hohenpriesters, der da hieß Kaiphas,

～に 屋敷 大祭司の※ (関代) という名の カイファ

カイファという名の大祭司の屋敷に集まり、

und hielten Rat, wie sie Jesum mit Listen griffen und töteten. Sie sprachen aber:

催した 協議会を どのように 彼らは イエスを 計略で 捕らえる(過) 殺す(過) 彼らは 言った

どのような計略でイエスを捕らえ殺そうか、と協議した。そこで彼らは言った。

halten, greifen, töten 3複過去

※男性名詞 Hohenpriester は、「祭司長」、「大祭司」の双方に用いられる単語である。(ギリシア語でも archiereus という同じ単語をもちいる。)

「祭司長」は、ユダヤ人権力中枢における祭司貴族たちのことで、これは複数人いる(die Hohenpriester)。

これに対して「大祭司」は、ローマの代官の下でユダヤ人社会の内政を任されていた政治的首長であり1人しかいない(der Hohenpriester)。

Nr.4b【5】(26:5) 二重合唱 (祭司長たち、および律法学者・長老たち)

Ja nicht auf das Fest, auf dass nicht ein Aufruhr werde im Volk.

そうだ ダメだ の期間(+4格) 祭 ～ように(目的) ない 騒乱が 起きる ～内に 民衆

そうだ、祭の間はいけない。民衆の中で騒ぎが起きないようにしよう。

香油を注ぐベタニアの女

Nr.4c【6】(26:6-8)

福音史家: Da nun Jesus war zu Bethanien, im Hause Simonis des Aussätzigen,
さて イエスは いた ベタニア 家に シモンの 癩病人の

さて、イエスが、ベタニアで、癩病人シモンの家にいた時、

trat zu ihm ein Weib, die hatte ein Glas mit köstlichem Wasser

歩み寄った 彼に 女が (関代) 持っていた ガラス容器 高価な 水(ここでは香油)

一人の女が、高価な香油の入ったガラス容器を持って、彼に近寄り、

treten 3単過去

und goss es auf sein Haupt, da er zu Tische saß.

注いだ それを の上に 彼の 頭 彼が 食卓に 着席した

イエスの頭に香油を注いだ。それは彼が食卓に着いていた時だった。

gießen, sitzen 3単過去

Da das seine Jünger sahen, wurden sie unwillig und sprachen:

すると それを 彼の 弟子たちが 見た ~になった 彼らは 不機嫌に 言った

すると、イエスの弟子たちはそれを見て、腹を立てて言った。

※「イエスへの塗油」の物語は、マルコとマタイでは全く同じである。マルコ 14:3-9 ではその香油の値段は 300 デナリ以上(労働者の1日の賃金が1デナリ)とあるので、この女性は所謂「罪深い生業」によって富裕であったと考えられる。しかしそれは(差別されていた)癩病人シモンの家の家計を成り立たせるためだったに違いない。ヨハネ 12:1-8 では、同じベタニアだが、イエスが死から甦らせたラザロの家で、その妹のマリアが自らの髪でイエスの足に香油を塗る話になっている。そこで「300デナリで売れたのに」と批難したのはユダとされている。それは彼が貧しい人たちのことを考えたのではなく、彼自身が預かり品を横領していたからだ、とまで書かれている。明らかに、裏切り者ユダをさらなる悪人に仕立て上げるための作り話である。(イエスの返答は、マタイ・マルコと同じく「彼女は埋葬のためにしてくれた」である。)これらに対して、ルカ 7:37-50 (受難物語よりずっと前)では、イエスがパリサイ派の家で食事していた時、罪深い女が現れて、香油を自らの髪でイエスの足に塗った、イエスはその罪を許した、という話になっている。(埋葬準備の話はない。)しかもその直後の 8:2 で、イエスに病を癒やされた女たちの筆頭に「七匹の悪霊が出て行ったマグダラのマリア」が紹介されており、そこから連想で、マグダラのマリア=罪深い女とされてしまった。

Nr.4d【7】(26:8-9) 合唱Ⅰ (弟子たち)

Wozu dienet dieser Unrat?

何のために 役立つ この 無駄

何のために、こんな無駄使いをするのか?

Dieses Wasser hätte mögen teuer verkauft und den Armen gegeben werden.

この 香油は できたらうに 高値で 売られる 貧しい人たちに 与えられる (受)

この香油は高く売られて、貧しい人々に施しとして与えられたらうに。

※ hätte 接続法Ⅱ(話者の非実現願望)

Nr.4e【8】(26:10-13)

福音史家: Da das Jesus merketete, sprach er zu ihnen: すると、イエスはそれに気づいて、弟子たちに言った。
すると それに イエスは 気づいた 言った 彼は 弟子たちに

イエス: Was bekümmert ihr das Weib? Sie hat ein gut Werk an mir getan.

何を 困らせる お前たちは この女を 彼女は (完) 良い 事を 私に した

なぜ、お前たちはこの女を困らせるのか? 彼女は私に良い事をしてくれたのだ。

Ihr habet allezeit Armen bei euch, mich aber habt ihr nicht allezeit.

お前たちは 持つ いつも ※ 貧しい人たちを お前たちの側に 私を だが 持つ お前たちは いつもではない

貧しい人々は常にお前たちの周りにいるが、私は常にお前たちと一緒にいるわけではない。

※ 旧全集 Arme

Dass sie dies Wasser hat auf meinen Leib gegossen, 彼女が香油を私の体に注いだのは、

(接) 彼女が この 香油を (完) 私の 身体に 注いだ

hat sie getan, dass man mich begraben wird.

(完) 彼女が した ~のため 誰かが 私を 埋葬する ~だ(未来)

私が葬られるためにしてくれた事なのだ。

Wahrlich, ich sage euch:

まことに 私は 言う お前たちに

まことに、お前たちに言うておく、

※ Wahrlich = Amen の訳

Wo dies Evangelium geprediget wird in der ganzen Welt,

～の所で この 福音が 宣べ伝えられるだろう 全 世界

この福音が宣べ伝えられるであろう所では世界中どこでも、

※ predigen 伝道する

da wird man auch sagen zu ihrem Gedächtnis, was sie getan hat.

そこで だろう (不代) もまた 語る 彼女の 記念 ～こと 彼女が した (完)

彼女のしてくれたこともまた、彼女の記念として語り伝えられるだろう。

Nr.5【9】レチタティーヴォ (アルト)

Du lieber Heiland, du,

あなた 愛する 救い主

愛する救い主であるあなた、

wenn deine Jünger töricht streiten,

～の時 あなたの弟子たちが 愚かに 言い争う

あなたの弟子たちは愚かにも言い争いました、

dass dieses fromme Weib

(接) この 敬虔な 女が

この敬虔な女が

mit Salben deinen Leib

～で 香油を塗ること あなたの 身体に

あなたの身体に香油を塗ることによって

zum Grabe will bereiten,

～へ 墓 ～しようとする 準備する

墓へ(葬る)準備をしたことについて。

so lasse mir inzwischen zu,

そう 私に許せ それでも

それでも、私にお許し下さい、

von meiner Augen Tränenflüssen

～から 私の 目 流れる涙

私の目から流れる涙の

ein Wasser auf dein Haupt zu gießen!

1つの 水滴を ～の上に あなたの 頭 (不定詞)注ぐことを

一滴をあなたの御頭に注ぐことを。

Nr.6【10】アリア (アルト)

Buß' und Reu'

懺悔 と 後悔は

懺悔と後悔は Buße, Reue

knirscht das Sündenherz entzwei,

軋ませる 罪深い心を 二つに割れた

この罪深い心を^{まし}軋ませ、二つに引き裂きます。

dass die Tropfen meiner Zähren

(接) 滴は 私の 涙の

そして私の涙の滴は

angenehme Spezerei,

心地よい 香料を(4格)

心地よい香料となって、

treuer Jesu, dir gebären.

誠実な イエスよ あなたに 生じさせます

誠実なイエスよ、あなたに注がれるのです。

ユダの裏切り

Nr.7【11】(26:14-16)

福音史家: Da ging hin der Zwölfen einer mit Namen Judas Ischarioth

行った 12人の(2格) 一人が ～という名の ユダ イスカリオテ

※ hin_gehen 行く

その頃、十二人の一人でイスカリオテのユダという名の者が、

zu den Hohenpriestern und sprach:

～へ 祭司長たち(男様3格)

言った

祭司長たちの所へ行き、言った。

Nr.9c 【 15 】(26:18-21)

福音史家: Er sprach: イエスは言った。
彼は 言った

イエス: Gehet hin in die Stadt zu einem und sprecht zu ihm: Der Meister lässt dir sagen:
～へ行け ～の中の 街 ～へ ある人 言え 彼に 先生が 命じた あなたに 言うことを
街のある人のところに行って、彼にこう言いなさい。 「先生があなたに、こう言っています。

Meine Zeit ist hier, ich will bei dir die Ostern halten mit meinen Jüngern.
私の 時 ここ 私は ～しよう あなたの所で 過越 催す ～とともに 私の 弟子たち
『私の時が近づいた。 私はあなたの所で弟子たちと一緒に過越をしたい』と。」

福音史家: Und die Jünger taten, wie ihnen Jesus befohlen hatte, und bereiteten das Osterlamm.
弟子たちは した ～のように 彼らに イエスが 命じた (完) 準備した 過越の子羊を
弟子たちは、イエスが命じたとおりにして、過越の食事を準備した。 ※ tät は tun 過去形 tat の古語

Und am Abend setzte er sich zu Tische mit den Zwölfen. Und da sie aßen, sprach er:
晩に 着席した 彼は 食卓に ～とともに 12人 そこで 彼らが 食事した 言った 彼は
晩になると、イエスは十二人と一緒に食卓に着いた。一同が食事をしているとき、イエスは言われた。
※ setzte は setzen 過去形 setzte の古語

イエス: Wahrlich, ich sage euch: Einer unter euch wird mich verraten.
まことに 私は 言う お前たちに 一人が お前たちのうちの ～だろう 私を 裏切る
まことに、お前たちに言うておく。お前たちのうちの一人が私を裏切るだろう。

Nr.9d (26:22)

福音史家: Und sie wurden sehr betrübt und huben an, 弟子たちは非常に悲しんで、
彼らは (受、過去) 大変に 悲しんだ ～し始めた ※ hub は heben 過去形 hob の古語、an_heben ～し始める(雅語)
ein jeglicher unter ihnen, und sagten zu ihm: 各々それぞれ、イエスに対して言い始めた。
各々それぞれが 彼らのうちの 言った(3 複過去) 彼に ※ jeglicher=jeder 不定代名詞、各々それぞれ

Nr.9e (26:22) 合唱 I (弟子たち)

Herr, bin ich's? 主よ、それは私ですか?
主よ ですか 私がそれ(ich es) ※この曲で Herr という呼びかけが11回ある。十二使徒のうちユダを除く11名が次々に呼びかけたことを表す。

Nr.10 【 16 】 コラール

詞: Paul Gerhardt 「O Welt, sieh hier dein Leben」第5節 旋律:B

Ich bin's, ich sollte büßen, それは私です、私が ～すべきだ 償いをする	それは私です、私が償うべきなのです。
an Händen und an Füßen 両手 と 両足を	両手、両足を
gebunden in der Höll'. 縛られて ～の中で 地獄	地獄の中で縛られるべきなのです。
Die Geißeln und die Banden 鞭打ち と 縄	鞭打ちと縄、
und was du ausgestanden, そして (関代) あなたが 耐え忍んだ	そしてあなたが耐え忍ばれた苦難、
das hat verdient meine Seel'. それを (完) 受けるべきだった 私の 魂は	私の魂は、それを当然受けるべきだったのです。 ※ verdienen(～に値する、受けて然るべきだ)

Nr.11【17】(26:23-29)

福音史家: Er antwortete und sprach: イエスは答えて言った。
彼は 答えて 言った

イエス: Der mit der Hand mit mir in die Schüssel tauchet, der wird mich verraten.
(指代) 手を 私とともに 鉢に 浸す (関代) だろう 私を 裏切る
私とともに鉢に手を浸している者、その者が私を裏切るだろう。

Des Menschen Sohn gehet zwar dahin, wie von ihm geschrieben stehet;
人の 子は 行く 確かに 去って ~のように 彼について 書かれてある
確かに、人の子は去って行く、聖書に書かれてあるとおりに。 ※ zwar ~ doch -(確かに~だが-)

doch wehe dem Menschen, durch welchen des Menschen Sohn verraten wird!
だが 哀れた その者は ~によって (関代) 人の 子が 裏切られる (受)
だが、その者は哀れた。 人の子を裏切る その者は! (※彼によって人の子が裏切られる所のその者は)

Es wäre ihm besser, dass derselbige Mensch noch nie geboren wäre.
(過去接続法Ⅱ) 彼にとって 良かった (接) 当の 本人が やはり ~ない 生まれない (過去接続法Ⅱ)
彼にとって、より良かったのは、彼自身が生まれてこないことだったのに。 . .

福音史家: Da antwortete Judas, der ihn verriet, und sprach: すると、イエスを裏切ったユダが答えて言った。
すると 答えて ユダは (関代) イエスを 裏切った 言った

ユダ: Bin ich's, Rabbi? 先生、それは私ですか?
私がそれですか 先生

福音史家: Er sprach zu ihm: イエスは彼に言った。
イエスは 言った ユダに

イエス: Du sagest's. お前がそう言うのか。※ Du sagest es.
お前が それを言う

※これは聖書学者田川建三氏の名訳である。既に裏切っているお前が、そういう物言いをするのか? というイエスの気持ちを表現している。
バツハもこの Du sagest's.だけ上昇音型を付けている。

福音史家: Da sie aber aßen, nahm Jesus das Brot, dankete und brach's,
~の時 彼らが 食事した 取った イエスは パンを 感謝した 裂いた
一同が食事をしている時、イエスはパンを取り、感謝して、それを裂き、

und gab's den Jüngern und sprach: 弟子たちに与えて言った。
それを与えた 弟子たちに 言った

イエス: Nehmet, esset, das ist mein Leib. 取って食べなさい。これは私の体である。
取れ 食べよ これは である 私の 身体

福音史家: Und er nahm den Kelch und dankete, gab ihnen den und sprach:
彼は 取った 杯を 感謝した 与えた 彼らに(3格) それを(4格) 言った
また、杯を取り、感謝して、彼らに与えて言った。

イエス: Trinket alle daraus; das ist mein Blut des neuen Testaments,
飲め 皆 これから これは である 私の 血 新しい 契約の
皆、この杯から飲みなさい。これは、新しい契約のための私の血、

welches vergossen wird für viele zur Vergebung der Sünden.
(関代) 流される (受) ~にとって 多くの人 ~のため 許し 罪の
多くの人にとって罪の許しのために流される血である。

Ich sage euch:

私は 言う お前たちに

お前たちに言うておく。

Ich werde von nun an nicht mehr von diesem Gewächs des Weinstocks trinken

私は ~だろう 今より後 ~ない もう ~から この ~産の酒 ~ぶどう 飲む

私は今より後、葡萄から造られたこのような酒を飲むことは決してないだろう。※

bis an den Tag, da ich's neu trinken werde mit euch in meines Vaters Reich.

~まで その 日 私はそれを 新たに 飲む だろう お前たちと 私の 父の 国で

私の父の国でお前たちとともに、新たに飲むであろうその日まで。

※この部分、ギリシア語聖書原文と比較すると、マルコ福音書 14:25 では「葡萄から造られたもの」である。

これをマタイ福音書が「葡萄から造られたこのようなもの」と書き換えたのは、葡萄から造られるのはワインだけではないからであろう。

ルター訳でマルコ福音書の当該部分を見ると「vom Gewächse des Weinstocks」で、diesem (これ)が無いのがわかる。

Gewächs は「~産のワイン」という意味なので、この文だけなら、「この地のワインは飲まない。父の国で飲むまでは。」とも訳せそうであるが、意訳しすぎだろう。

※また、マルコ福音書 14:25 冒頭はルター訳で「Wahrlich Ich sage euch」である。ギリシア語原文も「Amen」で始まっている。

Amen で始まるイエスの威厳ある言葉が好きなのは、マルコよりもむしろマタイ著者のほうなのに、なぜかここではマタイが Amen を削除している。

Nr.12【18】レチタティーヴォ (ソプラノ)

Wiewohl mein Herz in Tränen schwimmt,

~にもかかわらず 私の心は ~の中に 涙 漂う

私の心は涙の中を漂っています。

dass Jesus von mir Abschied nimmt,

(接) イエスは 私に 別れを告げる

イエスが私に別れを告げているからです。

von jm Abschied nehmen

so macht mich doch sein Testament erfreut:

~させる 私を しかし 彼の 契約は 喜ぶ

それにもかかわらず、彼の契約は私を喜ばせます。

erfreut(過去分詞→形容詞)

Sein Fleisch und Blut, o Kostbarkeit,

彼の 肉体 と 血 おお 貴重なもの

彼の肉と血、おお、この尊いものを

vermacht er mir in meine Hände.

~に遺産として残す 彼は 私に 私の 手に

彼は私の手に遺してくれたのです。

Wie er es auf der Welt mit denen Seinen

~のように 彼は それを この世に ~と共に (指代3格) 存在

彼は、この世で彼とともに在った者を

nicht böse können meinen,

~ない 悪意ある ~でできる 思う

悪く思うことなどできなかつたように、

so liebt er sie bis an das Ende.

そう 愛する 彼は 彼らを ~まで 終末

世の終わりまで、彼らを愛してくださるのです。

Nr.13【19】アリア (ソプラノ)

Ich will dir mein Herze schenken,

私は ~しよう あなたに 私の 心を 捧げる

私はあなたに私の心を捧げます。

senke dich, mein Heil, hinein!

降りて来て 私の 救いよ ~の中に

降りてきて下さい、私の救いよ、(私)の中に！

senken 下げる・降ろす

Ich will mich in dir versenken;

私は~しよう 私を あなたの中に 沈める・埋没させる

私はあなたの中に身を沈めます。

ist dir gleich die Welt zu klein,

あなたに たとえ~でも 世が 小さすぎる

あなたにとってこの世が小さすぎようとも、

ei, so sollst du mir allein

そう ~べき あなたは 私に ~だけ

そう、私にはあなただけが

mehr als Welt und Himmel sein.

~よりも大きな 世界 天 である

世界や天よりもまさるべきものなのです。

オリーブ山での離反の予告

Nr.14【20】(26:30-32)

福音史家: Und da sie den Lobgesang gesprochen hatten, gingen sie hinaus an den Ölberg.
彼らは 賛美の歌を 歌った(完) 出かけて行った 彼らは オリーブ山へ

そして、彼らは賛美の歌を歌ってから、オリーブ山へと出かけて行った。 ※ hin_gehen 出かけて行く

Da sprach Jesus zu ihnen: その時、イエスは彼ら(弟子たち)に言った。
その時 言った イエスは 彼らに

イエス: In dieser Nacht werdet ihr euch alle ärgern an mir. ※ 今夜、お前たちは皆、私に躓くだろう。
今夜 ~だろう お前たちは 皆 躓く 私に

※ sich ärgern は「～に立腹する」の意味。現代のドイツ語直訳では Anstoß nehmen(腹立ちを覚える)で、ドイツ人はイエスの言葉をそのように理解しているようだ。ギリシア語原文では skandalidzo「信仰・正道から脱落する」で、英 RSV でも fall away「信仰を捨てる、離れる」と訳す。これを日本聖書協会も田川建三氏も「躓(つまず)く」と訳している。(なおマルコ 14:27 では単に「躓く」とある所をマタイでは「私に躓く」としている。しかしルターは、どちらも an mir をつけて訳している。)

Denn es stehet geschrieben: 聖書にこう書いてあるからだ。
なぜなら そう 書かれてある

Ich werde den Hirten schlagen, und die Schafe der Herde werden sich zerstreuen.
私は ~だろう 羊飼いを(男単4格) 打つ すると 羊たちは(中複1格) 群れの(女単2格) ~だろう 散り散りになる

「私は羊飼いを打つ。すると、群れの羊たちは散り散りになるだろう」と。

Wenn ich aber auferstehe, will ich vor euch hingehen in Galiläam.
~の時※ 私は 復活する ~のつもりだ お前たちより先に 行く ガリラヤへ

しかし、私は復活した時には、お前たちより先にガリラヤへ行くつもりだ。 ※ 旧全業 Wann

Nr.15【21】コラール

詞: Paul Gerhardt「O Haupt voll Blut und Wunden」第5節 旋律:C

Erkenne mich, mein Hüter, 認めて下さい 私を 私の 牧者よ	私を認めてください、私の牧者よ。
mein Hirte, nimm mich an! 私の 羊飼いや 受け入れて下さい 私を	私の羊飼いや、私を受け入れてください! an_nehmen 受け入れる
Von dir, Quell aller Güter, ~から あなた 泉 全ての 宝の	すべての宝の泉であるあなたから
ist mir viel Gut's getan. (完) 私に 多くの 良い事 行われた	私に多くの良いことが行われました。
Dein Mund hat mich gelabet あなたの 口は (完) 私を 元気づけた	あなたの口は私を元気づけてくれました、
mit Milch und süßer Kost, ~で 乳 と 甘い 食べ物	乳と甘い食べ物によって。
dein Geist hat mich begabet あなたの 霊は (完) 私に 与えた	あなたの霊は私に与えました、
mit mancher Himmelslust. 多くの 天国の喜びを	多くの天国の喜びを。

Nr.16【22】(26:33-35)

福音史家: Petrus aber antwortete und sprach zu ihm: するとペテロが答えてイエスに言った
ペテロは 答えた 言った 彼に

ペテロ: Wenn sie auch alle sich an dir ärgerten, so will ich doch mich nimmermehr ärgern.※
もし たとえ 皆が あなたに 躓いても それでも 私は だが 決して~ない(=never) 躓く

たとえ、皆があなたに躓いても、私はあなたに決して躓きません。

福音史家: Jesus sprach zu ihm: イエスは彼に言った。
イエスは 言った 彼に

イエス: Wahrlich, ich sage dir: まことにお前に言っておく。
まことに 私は 言う お前に

In dieser Nacht, ehe der Hahn krähet, wirst du mich dreimal verleugnen.
今夜 ~の前に 鶏が 鳴く ~だろう お前は 私を 三度 否認する

今夜、鶏が鳴く前に、お前は三度、私のことを否認するだろう。

福音史家: Petrus sprach zu ihm: ペテロはイエスに言った。
ペテロは 言った 彼に

ペテロ: Und wenn ich mit dir sterben müsste, so will ich dich nicht verleugnen.
もし 私が あなたと共に 死ななければならない それでも 私は あなたを 否認しない

たとえ、あなたと共に死なねばならなくなっても、私はあなたを決して否認しません。

福音史家: Desgleichen sagten auch alle Jünger. 弟子たちも皆、同じように言った。
同様に 言った ~もまた 全ての弟子たち

Nr.17【23】コラール

詞: Paul Gerhardt「O Haupt voll Blut und Wunden」第6節 旋律:C

<p>Ich will hier bei dir stehen; <small>私は (意志) ここに の側に あなた 在る</small></p> <p>verachte mich doch nicht! <small>軽蔑する(命令) 私を ~しないで</small></p> <p>Von dir will ich nicht gehen, <small>~から あなた (意志) 私は ~しない 行く・去る</small></p> <p>wenn dir dein Herze bricht. <small>~の時 あなたの 心が 裂ける</small></p> <p>Wenn dein Herz wird erblassen <small>~の時 あなたの 心が だるう 蒼ざめる</small></p> <p>im letzten Todesstoß, <small>~中で 最後の 死の 衝撃</small></p> <p>als denn will ich dich fassen <small>その時には (意志) 私は あなたを しっかり抱く</small></p> <p>in meinen Arm und Schoß. <small>~で 私の 腕 と 膝・懐</small></p>	<p>私はここで、あなたの側に留まっています。 <small>stehen ↔ gehen</small></p> <p>どうか私を侮らないで下さい!</p> <p>あなたのもとから私は離れません、</p> <p>あなたの心が張り裂ける時も。 <small>brechen 3単現</small></p> <p>あなたの心が、</p> <p>最後の死の衝撃の中で蒼ざめるだろう時、</p> <p>私はあなたをしっかりと抱きましょう、</p> <p>私の腕と膝に。</p>
---	---

ゲッセマネの祈り

Nr.18【24】(26:36-38)

福音史家: Da kam Jesus mit ihnen zu einem Hofe, der hieß Gethsemane,
~時 来た イエスは ~と共に 彼ら ある 園へ (関代) と称する ゲッセマネ

イエスは弟子たちと一緒にゲッセマネという園に来ると、

und sprach zu seinen Jüngern: 弟子たちに言った。
言った 彼らの 弟子たちに

イエス: Setzet euch hie, bis dass ich dort hingehge und bete.
座っていよ 汝ら ここに ~まで 私が あそこ 行く 祈る

ここに座っていなさい、わたしが向こうへ行つて祈っている間。

福音史家: Und nahm zu sich Petrum und die zween Söhne Zebedäi

連れて行った ペテロ 二人の 子ら ゼベダイの

そして、ペテロおよび二人のゼベダイの子らを連れて行ったが、

※ zween は zweien の古語

und fing an zu trauern und zu zagen. Da sprach Jesus zu ihnen:

～し始めた 悲しむ 怖れる 言った イエスは 彼らに

そこで、悲しみ怖れ始めた。そして、イエスは彼らに言った。

※ an_fangen ～し始める

イエス: Meine Seele ist betrübt bis an den Tod, bleibet hie und wachet mit mir !

私の 魂は 悲しい ～まで ～の側に 死 留まれ ここに 目を覚ましていよ 私と共に

私の魂は死にそうなくらいに悲しい。ここに留まり、私とともに目を覚ましていなさい。

Nr.19【25】レチタティーヴォ(テノール)とコラール

O Schmerz !

おお 苦痛よ

ああ、苦痛よ！

Hier zittert das gequälte Herz;

ここに 震える 苦しめられた 心が

苦しめられた心がここに震えている。 quälen 苦しめる

wie sinkt es hin, wie bleicht sein Angesicht ! その心は何と崩折れ、御顔は何と蒼ざめていることか！

何と 崩れ折れる その心は 何と 蒼ざめている 彼の 顔は hin_sinken

<コラール(合唱Ⅱ)>

詞: Johann Heermann「Herzliebster Jesu」第3節 旋律: A

Was ist die Ursach' aller solcher Plagen? その全ての苦しみの原因は何ですか？

何ですか 原因は 全ての そのような 苦しみの

Der Richter führt ihn vor Gericht.

裁き主は 連行した 彼を ～に 法廷

裁き主は彼を法廷に引き立て、

Da ist kein Trost, kein Helfer nicht.

そこには 無い 慰め 無い 助ける者 ～ない

そこには慰めも、助ける人もいない。

kein と nicht がだぶっている？

Ach, meine Sünden haben dich geschlagen; ああ、私の罪があなたを打ったのです。

ああ 私の 罪が (完) あなたを 打った

Er leidet alle Höllenqualen,

彼は 苦しむ あらゆる 地獄の責苦

彼はあらゆる地獄の責苦に苦しみ、 Qual 責苦、苦悩

er soll vor fremden Raub bezahlen.

彼は ～のための 見知らぬ 盗賊 あがなう、支払う

他人の盗みの償いをしなくてはならない。

Ich, ach Herr Jesu, habe dies verschuldet, 主イエスよ、ああ、私がこの罪を犯したのです、

私が ああ 主 イエスよ (完) この 罪を犯した

was du erduldet.

(関代) あなたが 耐えている

あなたが耐えておられるその罪を。

Ach, könnte meine Liebe dir,

ああ できるなら(単過去接Ⅱ) 私の 愛が あなたに

ああ、私の愛が、できるなら、

mein Heil, dein Zittern und dein Zagen

私の 救いよ あなたの 震えを あなたの 怖れを

私の救いよ、あなたの震えと怖れを、

vermindern oder helfen tragen,

和らげる または 助ける 支える

和らげるか、支え助けることができるなら、

wie gerne blieb ich hier !

どんなに 喜ばしく 留まる 私は ここに

私はどんなに喜んでここに留まることでしょう！

Nr.20【26】アリア（テノール）& 合唱Ⅱ

Ten :	Ich will bei meinem Jesu wachen. 私は しょう への側で 私の イエス 目覚めている	私はイエスの側で目覚めていよう。
合唱:	So schlafen unsre Sünden ein. そうすれば 眠りこむ 我々の 罪は ※ ein_schlafen(眠りこむ)	そうすれば私たちの罪は眠りこむ。
Ten :	Meinen Tod büßet seine Seelennot, 私の 死を 償う 彼の 魂の苦しみが	私の死を彼の魂の苦しみが償い、
	sein Trauren machet mich voll Freuden. 彼の 悲しみが へする 私を 満ちた 喜び	彼の悲しみが、私を喜びで満たす。
合唱:	Drum muss uns sein verdienstlich Leiden 故に へに違いない 我々に 彼の 功德ある 受難は	故に、彼の功德ある受難は我々にとつて
	recht bitter und doch süße sein. まことに 苦い そして しかし 甘い である	実に苦いが、また甘くもあるに違いない。

Nr.21【27】(26:39)

福音史家: Und ging hin ein wenig, fiel nieder auf sein Angesicht und betete und sprach:
行った 少し 跪いた への上に 彼の 顔 祈った 言った

そしてイエスは、少し奥へ入って行き、跪いて顔をひれ伏して、祈って言った。

※ nieder_fallen ひざまづく

イエス: Mein Vater, ist's möglich, so gehe dieser Kelch von mir;
私の 父よ それが 可能なら それなら 取り去れ この 杯を 私から

我が父よ、できることなら、この杯を私から取り去ってください。

doch nicht wie ich will, sondern wie du willst.※

※旧全集は willst (2人称単数)

しかし ない へのような 私の 望む へではなく あなたが 望む

しかし、私ではなく、あなたの望む通りに。

Nr.22【28】レチタティーヴォ（バス）

Der Heiland fällt vor seinem Vater nieder; 救い主は 跪いた への前に 彼の 父	救い主は父の御前にひざまずいた。
dadurch erhebt er mich und alle それによって 上へあげる 彼は 私を 全ての人を	それによって彼は、私と全ての人を、
von unserm Falle へから 我々の 墮落	我々の墮落から
hinauf zu Gottes Gnade wieder. 上へ へへ 神の 恵み 再び	神の恵みへと、再び、すくい上げてくださる。
Er ist bereit, 彼は 準備している	彼は杯を、死の苦みを飲む
den Kelch, des Todes Bitterkeit zu trinken, 杯を 死の 苦さを 飲む	心構えができています。
in welchen Sünden dieser Welt への中には (関代=杯) 罪 この 世の	その杯には、この世の罪が
gegossen sind und hässlich stinken, 注がれた (完了・受) 酷く 悪臭を放つ	注がれ、厭うべき悪臭を放っているが、
weil es dem lieben Gott gefällt. へであるから それが 愛する 神の 気に入る	これを飲むことが、愛する神の意に合うことだから。

Nr.23【29】アリア (バス)

Gerne will ich mich bequemen,

喜んで ~しよう 私は 甘んじて受けよう

Kreuz und Becher anzunehmen,

十字架と杯を 受ける(不定詞)

trink' ich doch dem Heiland nach.

飲む 私はもちろん 救い主に 後に従って

Denn sein Mund,

なぜなら 彼の 口は

der mit Milch und Honig fließet,

(関代) 乳 と 蜂蜜が 流れ出る

hat den Grund

(完) 大地を

und des Leidens herbe Schmach

そして 受難の 苦い 恥辱を

durch den ersten Trunk versüßet.

~によって 最初の ひと飲み 甘くする

喜んで私は承知しよう、

sich4 zu ~ bequemen(しぶしぶ~を承知する)

十字架と杯を受けることを。 ※ Becher のうち教会用具を Kelch という

an_nehmen

もちろん私は救い主にならって、それを飲もう。

なぜなら、彼の口は、

そこから乳と蜂蜜が流れ出て、

それが、大地と

受難の苦い恥辱とを

最初のひと飲みで、甘くしてくれたのだから。

Nr.24【30】(26:40-42)

福音史家: Und er kam zu seinen Jüchern und fand sie schlafend und sprach zu ihnen:

彼は 戻った ~へ 彼の 弟子たち 見つけた 彼らを(4格) 眠っている(現在分詞) 言った 彼らに

そしてイエスは弟子たちのところへ戻り、彼らが眠っているのを見て、彼らに言った。

イエス: Können ihr denn nicht eine Stunde mit mir wachen?

~できる 汝らは さて ~ない ひと時 私とともに 目を覚ましている

さて、お前たちは、ひと時も私とともに目を覚ましていられないのか?

Wachet und betet, dass ihr nicht in Anfechtung fallet!

目を覚ませ 祈れ (接) 汝らが ~ない 誘惑に 陥る

目を覚まして祈っていなさい! 誘惑に陥らぬように。

Der Geist ist willig, aber das Fleisch ist schwach.

精神は しっかりした しかし 肉体は 弱い

精神はしっかりしていても、肉体は弱いものだ。

福音史家: Zum andernmal ging er hin, betete und sprach:

もう一度 行った 彼は 向こうへ 祈った 言った

さらにもう一度、奥へ入って行き、祈って言った。

イエス: Mein Vater, ist's nicht möglich, dass dieser Kelch von mir gehe, ich trinke ihn denn,

私の 父よ それが でないなら 可能 (接) この 杯を 私から 取り去る 私は 飲む それを ならば

我が父よ、この杯を私から取り去ることがかなわないのであれば、私はそれを飲みます、

so geschehe dein Wille.

起これ あなたの意志が

あなたの御心が行われますように。

※ geschehen(起こる、行われる)

Nr.25【31】コラール

詞: Albrecht von Preußen(1490-1568,プロイセン公) 旋律: Claudin de Sermisy(仏,1490c.-1562)

Was mein Gott will, das g'scheh' allzeit,

(関代) 私の 神が 意図する それが 行われる 常に

私の神が意図することが、常に行われますように。

sein Will', der ist der beste,

彼の 意志 それは 最良である

神の意志、それは最良のものなのです。

zu helfen den'n er ist bereit,

(不定詞)助ける (指代) 彼は 備えている

神は、助けようと備えているのです、

die an ihn gläuben feste,

(関代) 彼を 信ずる 堅く

神を堅く信じる者たちを。 ※旧全集 glauben

Er hilft aus Not, der fromme Gott,

彼は 助ける ~から 苦しみ 誠実な 神

彼は苦しみから助けてくれる、誠実な神、

und züchtiget mit Maßen.

そして 懲らしめる ~をもって 節度

そして節度をもって懲らしめもする。

Wer Gott vertraut, fest auf ihn baut,

(関代) 神を 信頼する 堅く ~の上に 彼 建てる

神を信頼し、しっかりと神を礎とする人、

den will er nicht verlassen.

(関代) だろう 彼は ~ない 見捨てる

その人を、神は見捨てないでしょう。

イエス捕縛

Nr.26【32】(26:43-50)

福音史家: Und er kam und fand sie aber schlafend, und ihre Augen waren voll Schlaf's.

彼は 戻った 見た 彼らを 眠っている 彼らの 目は である いっぱい 眠気

イエスが戻ると、弟子たちが眠っているのを見た。彼らの眼は眠気でいっぱいだったのだ。

Und er ließ sie und ging abermal hin

彼は 離れた 彼らを 行った また 向こうへ

そこでイエスは彼らから離れ、また奥へ入って行き、

und betete zum drittenmal und redete dieselbigen Worte.

祈った 3度目 語った 同じ 言葉を

三度目も祈り、同じ言葉を語った。

Da kam er zu seinen Jü gern und sprach zu ihnen:

戻った 彼は 彼の 弟子たち 言った 彼らに

それからイエスは、弟子たちのところに戻って来て、彼らに言った。

イエス: Ach! wollt ihr nun schlafen und ruhen?

ああ ~のつもり 汝らは 今 眠る 休む

ああ、お前たちはまだ眠り休むつもりなのか？

※この行、ギリシア聖書の原文は「あとは眠って休むがよい」である。

Siehe, die Stunde ist hie,

見よ 時は ここに

見よ、時が来た。

dass des Menschen Sohn in der Sünder Hände überantwortet wird.

(接) 人の子が ~へ(4格) 罪人の 手(4格) 引き渡される (受)

人の子が罪人の手に引き渡される時だ。

Stehet auf, lasset uns gehen!

立て ~しよう 行く

Siehe, er ist da, der mich verrät!

見よ 彼は そこだ (関代) 私を 裏切る

立て、行こう！

見よ、わたしを裏切る者がそこにいる！

福音史家: Und als er noch redete, siehe, da kam Judas, der Zwölfen einer,
～の時 彼が まだ 語った 見よ 来た ユダが (関代) 12人の 一人である
イエスがまだ話しているうちに、見よ、十二人の一人であるユダがやって来た。

und mit ihm eine große Schar mit Schwertern und mit Stangen
彼と共に 大勢の 群衆が ～を持って 剣(複数) 棒(複数)
そして彼とともに大勢の群衆が剣や棒を持ってやって来た。

von den Hohenpriestern und Ältesten des Volks. 祭司長たちや民の長老たちが遣わしたのである。
～からの 祭司長たち(複数3格) 長老たち 民の

Und der Verräter hatte ihnen ein Zeichen gegeben und gesagt:
裏切り者は (完) 彼らに 合図を 与えた 言った
この裏切り者(ユダ)は、前もって、彼ら(群衆)に合図を与えて、こう言っていた。

„Welchen ich küssen werde, der ist's, den greifet!“
(関代)に 私が ロづけする(未来) (関代)が それだ (関代)を 捕まえる
「わたしがロづけするのが、その人だ。それを捕まえる」と。

Und alsbald trat er zu Jesu und sprach: ユダはすぐにイエスに近寄り、言った。
すぐに 近寄った 彼は イエスに 言った

ユダ: Gegrüßet seist du, Rabbi! 挨拶を受けて下さい、先生！
挨拶を受けて下さい あなた 先生 ※ seist(seinの2人称単数接続法、要求・願望)

福音史家: Und küsstete ihn. Jesus aber sprach zu ihm: そして彼にロづけした。イエスは彼に言った。
ロづけした 彼(イエス)に イエスは 言った 彼(ユダ)に

イエス: Mein Freund, warum bist du kommen? 我が友よ、なぜあなたは来たのか？※
私の 友よ なぜ (完) あなたは 来た (→本来ならば現在分詞 gekommen)

※ギリシア語聖書原文では「友よ、お前はこのために来たのか」である。「この」に当たる関係代名詞を疑問詞と解釈してルター訳・口語訳は「なぜ(何のために)来たのか」としている。しかし、フランス・カトリック訳、英語 NEB、新共同訳の「しようとしていることをするがよい」は作文しすぎ。「するがよい」という意味は書かれていない。(田川建三氏による訳註参照)

福音史家: Da traten sie hinzu und legten die Hände an Jesum und griffen ihn.
やって来た 彼らは かけた 手を イエスに 捕まえた 彼を
すると人々は進み寄り、イエスに手をかけて捕らえた。 ※ hinzu_treten やって来る、仲間に加わる

Nr.27a【33】二重唱(ソプラノ・アルト) & 合唱Ⅱ

Duetto: So ist mein Jesus nun gefangen. こうしてイエスは今や捕らえられてしまった。
こうして(完) 私の イエスは 今や 捕らえられた(現在完了・受動※) ※ ist gefangen werden の werden が省略

合唱: Lasst ihn, haltet, bindet nicht! 彼を放せ、やめろ、縛るな!
放せ 彼を やめろ 縛るな

Duetto: Mond und Licht 月も光も
月 と 光は

ist vor Schmerzen untergangen, 心痛のため沈んでしまった。 unter_gehen
(完) ～のために 心痛 沈んだ ※ vor+無冠詞3格(不随意的行動の原因)

weil mein Jesus ist gefangen. 私のイエスが捕らえられてしまったから。
～のゆえに 私の イエスが 捕らえられた

Sie führen ihn, er ist gebunden. 彼らはイエスを連行し、彼は縛られてしまった。
彼らは 連れて行く 彼を 彼は(完) 縛られた(現在完了・受動※)

Nr.27b 二重合唱

Sind Blitze, sind Donner

(完) 稲妻 (完) 雷鳴

稲妻と雷鳴は

in Wolken verschwunden?

～の中に 雲 消えてしまった

雲のなかに消えてしまったのか?

Eröffne den feurigen Abgrund, o Hölle,

～を開け 火の 深淵を 地獄よ

火の深淵を開け、おお地獄よ!

zertrümmre,

粉々に打ち砕け

verderbe,

破壊せよ

粉々に打ち砕け、

破壊せよ、

verschlinge,

飲み込め

zerschelle

粉々に砕け

飲み込んでしまえ、

粉々にしてしまえ、

mit plötzlicher Wut

～で 突然の 激しい怒り

突然の激しい怒りでもって、

den falschen Verräter,

偽りの 裏切り者を

偽りの裏切り者を!

das mörderische Blut!

殺人者の 血統を

殺人者の血統を!

Nr.28 [34](26:51-56)

福音史家: Und siehe, einer aus denen, die mit Jesu waren,

見よ 一人が ～の(指代)(関代) イエスと共に いた

※ヨハネ福音書では剣を抜いたのはペテロ、
大祭司の下僕の名はマルコ、切られた耳は右と明記。

すると見よ、 イエスと一緒にいた者の一人が※、

reckete die Hand aus und schlug des Hohenpriesters Knecht und hieb ihm ein Ohr ab.

伸ばした 手を 打った (単数なので)大祭司の 手下を 切り落とした 彼の 耳を

手を伸ばして(剣を抜き)、大祭司の手下に打ちかかって、彼の片方の耳を切り落とした。 ab_hauen 切り落とす

Da sprach Jesus zu ihm:

言った イエスは 彼に

そこで、イエスはその(切りかかった)者に言った。

イエス: Stecke dein Schwert an seinen Ort;

収めよ お前の 剣を その しかるべき所(鞘)に

剣を鞘(しかるべき場所)に納めなさい。

denn wer das Schwert nimmt, der soll durchs Schwert umkommen.

なぜなら (関代) 剣を 取る (指代)～べき ～によって 剣 死ぬ

なぜなら、剣を取る者は、 剣によって滅びることになっているからである。

Oder meinst du, dass ich nicht könnte meinen Vater bitten,

それとも 思う お前は(接) 私が ない できる 私の 父に 願う

それともお前は、私が父にお願いできないと思っているのか?

dass er mir zuschickte mehr denn zwölf Legion Engel?

(接)彼は 私に 送り届ける よりたくさんの 12 軍団 天使

(私がお願ひすれば)、父は十二軍団以上の天使たちを送ってくださるであろう。

Wie würde aber die Schrift erfüllet? Es muss also gehen.

どのように(受3単過接II)しかし 聖書は 実現される ～ねばならない こう なる

Schrift 文書→聖書、律法、預言書

しかしそれでは、聖書はどうして実現されようか? こうならなければならないのだ。

福音史家: Zu der Stund' sprach Jesus zu den Scharen:

その時 言った イエスは 群衆に

またその時、イエスは群衆に対して言った。

イエス: Ihr seid ausgegangen als zu einem Mörder,

汝らは(完) やって来た ~ように ~に対する 殺人者

あなたたちは、まるで殺人者に対するように、

mit Schwertern und mit Stangen, mich zu fahen;

~を持って 剣 棒 私を 捕まえる

剣や棒を持って、私を捕らえにやって来た。

bin ich doch täglich bei euch gegessen und habe gelehret im Tempel,

(完) 私は にもかかわらず 毎日 汝らの側に 座った(sitzen 過分) (完) 教えた ~の中で 神殿

私は毎日、あなたたちの側に座って、神殿の中で教えていたのに、

und ihr habt mich nicht gegriffen.

汝らは(完) 私を 捕らえなかった

あなたたちは私を捕らえなかったではないか。

Aber das ist alles geschehen, dass erfüllet würden die Schriften der Propheten.

しかし これは(完) 全て 起こった (接) 実現される (受3 複過接II) 文書 預言者たちの

しかし、この全てのことが起こったのは、預言者たちの書いたことが実現するためなのだ。

福音史家: Da verließen ihn alle Jünger und flohen.

見捨てた 彼を 全ての 弟子たちは 逃げた

すると弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げ去った。

verlassen(見捨てる)、fliehen(逃げる)

Nr.29【35】コラール

詞: Sebald Heyden(1499-1561) 旋律: Matthias Greitter(1495-1550)

O Mensch, beweine dein' Sünde groß,

おお 人よ 嘆き悲しめ 汝の 罪が 大きい

おお人よ、汝の罪の大いなることを嘆け。

darum Christus sein's Vaters Schoß

それ故 キリストは 彼の 父の 懐から

そのためにキリストは父の懐から

äußert und kam auf Erden;

現れる 来た 地上に

現れ、地上に降りて来られたのだ。

von einer Jungfrau rein und zart

~から 一人の 乙女 純粋な 優しい

純粋な優しい一人の乙女から、

für uns er hie geboren ward,

我々のため 彼は ここに 生まれた (完)

私たちのためにこの世に生まれて、

※ ward=werdenの過去 wurdeの古形

er wollt' der Mittler werden.

彼は ~しようとした 仲介者 ~になる

仲介者になろうとされたのである。

Den Toten er das Leben gab

死者に(複数3格) 彼は 生命を 与えた

彼は死者たちに生命を与え、

und legt' dabei all' Krankheit ab,

取り去った そこから 全ての 病気を

彼らからすべての病を取り去って下さった。

※ ab legen(取り去る)

bis sich die Zeit herdrange,

~まで 時が こちらに迫って

時が迫るまで。

※ herdrange...her こちらに、Drang 急迫

dass er für uns geopfert würd',

彼が 我々のために 犠牲にする (受)

(時が来て) 彼は、私たちのために犠牲となり、

trüg' unsrer Sünden schwere Bürd'

背負う 我々の 罪の(単数2格) 重い 負担を

私たちの罪の重荷を背負って下さった。

wohl an dem Kreuze lange.

十分に ~において 十字架 長く

十字架上において長い間、十分に。

※ 1727年第1稿では「Jesum laß ich nicht von mir(イエスを私から離しません)」の単純なコラールで第1部を終結させていた。

当曲は、1725年「ヨハネ受難曲」第2稿において冒頭合唱曲として変ホ長調で書かれたが、同第3稿以降では外されたものである。

1736年「マタイ」再演にあたり、この曲をホ長調に移調して、第1部終結合唱とした。

第Ⅱ部

Nr.30【36】アリア（アルト）& 合唱Ⅱ

Alt :	Ach, nun ist mein Jesus hin! ああ 今や 私の イエスは 行ってしまった	ああ、今や私のイエスは行ってしまった！
合唱:	Wo ist denn dein Freund hingegangen, どこに では あなたの 恋人は 行ってしまった o du Schönste unter den Weibern? おお 汝 最も美しい人 ~の中で 女たち	どこにあなたの恋人は行ってしまったのですか？ おお、女たちのうちで最も美しい人よ
Alt :	Ist es möglich, kann ich schauen? それは 可能ですか できますか 私は 見る	私は(彼を)見る事ができるでしょうか？
合唱:	Wo hat sich dein Freund hingewandt? どこに あなたの 恋人は 向かった	どこへあなたの恋人は向かったのですか？ ※ sich hin_wenden(向かう)
Alt :	Ach, mein Lamm in Tigerklauen! ああ 私の 子羊は ~の中 虎の 爪 Ach, wo ist mein Jesus hin? ああ どこに 私の イエスは 行ってしまった	ああ、私の子羊は虎の爪にかかってしまった！ Klaue 爪 ああ、どこへ私のイエスは行ってしまったのですか？
合唱:	So wollen wir mit dir ihn suchen. それでは しよう 我々は あなたと共に 彼を 探す	それでは、我々もあなたと一緒に彼を探しましょう。
Alt :	Ach, was soll ich der Seele sagen, ああ 何を ~べき 私は 魂に 言う wenn sie mich wird ängstlich fragen? もし 魂が 私に ~するようになる 不安そうに 尋ねる Ach, wo ist mein Jesus hin? ああ どこに 私の イエスは 行ってしまった	ああ、私は魂に何と言ったらよいのでしょうか、 もし彼女(魂=女性名詞)が私に不安そうに尋ねたら？ ああ、どこに私のイエスは行ってしまったの？と ※この合唱の詞は旧約「雅歌」第6章1節が元歌である。

大祭司の審問

Nr.31【37】(26:57-60)

福音史家: Die aber Jesum gegriffen hatten, führten ihn zu dem Hohenpriester Kaiphas,
(指代) さて イエスを 捕らえた (完) 連行した 彼を ~へ 大祭司 カイファ

さて、イエスを捕らえた人々は、彼を大祭司カイファのところへ連行した。

dahin die Schriftgelehrten und Ältesten sich versammelt hatten.

そこに 律法学者たちが 長老たちが 集まっていた (完)

そこには律法学者たちや長老たちが集まっていた。

Petrus aber folgte ihm nach von ferne bis in den Palast des Hohenpriesters

ペテロは 一方 ついて行った 彼に 後を 距離をおいて ~まで 屋敷 大祭司の

一方、ペテロは、大祭司の屋敷まで、イエスの後を離れてついて行き、

und ging hinein und setzte sich bei die Knechte, auf dass er sähe, wo es hinaus wollte.

入って行った 座った ~の側に 下僕たち ~のため 彼が 見る(過接Ⅱ) どこへ 事が 向かう(過接Ⅱ)

屋敷の中庭に入って、下僕たちの側に座り、この成り行きがどこに向かうか見ようとした。 ※ hinaus_wollen(目指す)

Die Hohenpriester aber und Ältesten und der ganze Rat

祭司長たちは 長老たちは 全 最高法院は

さて、祭司長たち、長老たち、そして最高法院の全議員は

suchten falsche Zeugnis wider Jesum, auf dass sie ihn töteten, und funden keines.

探し求めた 偽りの 証言を ~に対する イエス ~のために 彼らが イエスを 殺す 見つけた 何も無い

イエスに対する偽りの証拠を求め、彼を処刑しようとしたが、何も見つけれなかった。

※ fund は finden(見つける)の過去形 fand の古語

Nr.32【38】コラール

詞: Adam Reusner(1496?-1575?) 旋律: Sethus Calvisius(1556-1615)

Mir hat die Welt trüglich gericht'※

私を (完) 世は 詐欺で 裁いた

世は私を偽りの裁きにかけた。

mit Lügen und mit falschem G'dicht,

~で 嘘(fp3) と ~で 偽りの 詩(ns3)

嘘と、作り話で、

viel Netz' und heimlich Stricken.※

多くの 網(np3) と 秘密の 網(mp3)

多くの網と、秘密の網で。

Herr, nimm mein wahr in dieser G'fahr,

主よ 認めよ 私の (正しさ) ~の中で この 危険

主よ、この危険の中で、私を正しいと認めて、

※ mein(人称代名詞2格の用法、普通は meiner)

b'hüt mich für falschen Tücken!

守る 私を 偽りの 悪たくみ

私を偽りの策略から守ってください。

※ペーレンライター版のみ Stricke だが誤りであろう。 ※ wahr_nehmen 認める Wahrheit 真実、正しさ

Nr.33【39】(26:60-63)

福音史家: Und wiewohl viel falsche Zeugen herzutraten, funden sie doch keins.

にもかかわらず 多くの 偽りの 証人が 現れた 見つけた 彼らは だが 何も無い

多くの偽証人が現れたにもかかわらず、彼らは証拠を全く見つけれなかった。

※ herzu こちらへ(分離前綴) traten は treten(現れる)の過去形

Zuletzt traten herzu zween falsche Zeugen und sprachen:

最後に 現れた 二人の 偽の 証人が 言った

最後に二人の偽証人が現れて言った。

偽証人: Er hat gesagt:

彼は (完) 言った

彼はこう言っていました。

Ich kann den Tempel Gottes abbrechen und in dreien Tagen denselben bauen.

私は できる 神殿を 打ち崩す ~で 3日間 それを 建てる

「私は神殿を打ち崩し、三日で建てることができる」と。

福音史家: Und der Hohepriester stund auf und sprach zu ihm:

大祭司は 立ち上がった 言った 彼に

そこで大祭司は立ち上がり、イエスに言った。

※ stund は stehen(立つ)の過去形 stand の古語

大祭司: Antwortest du nichts zu dem, das diese wider dich zeugen?

答えないのか お前は 何も これ(証言)に(関代)この者たちが お前に対して 証言する

お前はこれに何も答えないのか? この者たちはお前に対し不利な証言をしているが?

福音史家: Aber Jesus schwieg stille.

しかし イエスは 黙っていた 静かに

しかしイエスは静かに黙っていた。

Nr.34【40】レチタティーヴォ(テノール)

Mein Jesus schweigt

私の イエスは 黙っている

私のイエスは黙っている、

zu falschen Lügen stille,

~に対して 偽りの 嘘 静かに

偽りの証言に対して静かに。

um uns damit zu zeigen,
～のため 私たちに それによって 示す
dass sein Erbarmens voller Wille
(接) 彼の 慈悲・憐れみの 満ちた 意志は
vor uns zum Leiden sei geneigt,
私たちのために 受難に (接続法 I) ～に乗り気だ
und dass wir in dergleichen Pein
(接) 私たちが そのような 苦しみ
ihm sollen ähnlich sein
イエスと ～べき ～と同じ である
und in Verfolgung stille schweigen.
～の中で 迫害 静かに 黙っている

それによって、私たちに示すために。

彼の慈悲に満ちた御心は

私たちのために受難をする気があることを。

※ zu 3 格 geneigt ～の傾向がある、～に乗り気だ

また、私たちがそのような苦しみを受ける時には、

イエスと同じように 3 格 ähnlich ～と同じような

迫害の中でも静かに黙っているべきことを。

Nr.35【41】アリア（テノール）

Geduld,
耐え忍べ
wenn mich falsche Zungen stechen.
～の時 私を 偽りの 舌が(複数) 刺す
Leid' ich wider meine Schuld
耐える 私が ～に対して 私の 罪
Schimpf und Spott,
侮辱 と 嘲りを
ei, so mag der liebe Gott
ああ、そう ～だろう 愛する 神は
meines Herzens Unschuld rächen.
私の 心の 無実・無罪に 復讐する

耐え忍べ、 ※ gedulden 耐え忍ぶ

私を偽りの舌が刺すときも。

私が、(いわれの無い)罪に対して、 ※ leiden 耐える

侮辱と嘲りを耐え忍ぶ時、

ああ、そう、愛する神は ※ mögen ～だろう

私の心の無実に見てくださるだろう。 ※ rächen 復讐する

Nr.36a【42】(26:63-66)

福音史家: Und der Hohepriester antwortete und sprach zu ihm: 大祭司は(イエスの沈黙に)答えて彼に言った。
大祭司は 答えた 言った 彼に

大祭司: Ich beschwöre dich bei dem lebendigen Gott, 私には生ける神に誓ってお前に言う、
私は 誓って言う お前に ～の側で 生ける 神
「生ける神の側に汝を召喚する」が直訳。
beschwören 召喚する

dass du uns sagest, ob du seiest Christus, der Sohn Gottes?
(接) お前は 我々に 言う ～かどうか お前は ～なのか キリスト 子 神の ※ seiest(2単・現在・接続法 I)

我々に答えよ、お前は神の子たるキリストなのかどうか?

福音史家: Jesus sprach zu ihm: イエスは彼に言った。
イエスは 言った 彼に

イエス: Du sagest's. Doch sage ich euch: Von nun an wird's geschehen,
あなたが そう言っている しかし 言う 私は あなた方に 今より後 それは起こるだろう

あなたがそう言っているのだ。しかし、わたしはあなた方に言う。今より後、起こることだが、

dass ihr sehen werdet des Menschen Sohn sitzen zur Rechten der Kraft
(接) あなた方は 見るだろう 人の 子を 座る(不定詞) 右側に カある方の

あなた方は見るだろう、人の子が力ある方の右に座り、

und kommen in den Wolken des Himmels. 天の雲に乗って来るのを。
来る(不定詞) 雲 天の

福音史家: Da zerriss der Hohepriester seine Kleider und sprach:

引き裂いた 大祭司は 彼の 衣服を 言った

そこで、大祭司は自分の服を引き裂いて言った。

※ zerreißen 引き裂く

大祭司: Er hat Gott gelästert; was dürfen wir weiter Zeugnis?

彼は(完) 神を 冒瀆した 何か 必要である 我々は これ以上の 証拠

彼は神を冒瀆した。我々はこれ以上の証拠が必要だろうか？

Siehe, itzt habt ihr seine Gotteslästerung gehört. Was dünket euch?

見よ 今(完) あなた方は 彼の 神への冒瀆を 聞いた 何と 思われる あなた方には

見よ、今あなた方は神への冒瀆を聞いた。あなた方には何と思われるか？

福音史家: Sie antworteten und sprachen:

彼らは 答えた 言った

彼らは答えて言った。

Nr.36b (26:66) 合唱 I II (ユダヤ人たち)

Er ist des Todes schuldig!

彼は である 死の 罪がある

彼は、死罪だ！

Nr.36c [43](26:67-68)

福音史家: Da speieten sie aus in sein Angesicht und schlugen ihn mit Fäusten.

唾を吐いた 彼らは 彼の 顔に 殴った 彼を 拳で

彼らは、イエスの顔に唾を吐き、彼を拳で殴った。

※ aus_speien(唾を吐く)

Etliche aber schlugen ihn ins Angesicht und sprachen: 何人かは彼の顔を殴って言った。

何人かは 殴った 彼を 顔を 言った

Nr.36d(26:68) 二重合唱 (ユダヤ人たち)

Weissage uns, Christe, wer ist's, der dich schlug?

判じてみよ 我々に キリストよ 誰か (関代) お前を 打った

我々に言い当ててみる、キリストよ。お前を殴ったのは誰か？

Nr.37 [44] コラール

詞: Paul Gerhardt 「O Welt, sieh hier dein Leben」第3節 旋律:B

Wer hat dich so geschlagen,

誰が (完) あなたを そのように 打った

誰があなたをこのように打ったのですか？

mein Heil, und dich mit Plagen

私の 救いよ あなたを ~で 苦しみ

我が救いよ、誰があなたを苦しみでもって、

so übel zugericht'?

そのように 悪い ひどい目にあわせた

そんなにもひどい目に合わせたのですか？

※ zu_richten(ひどい目にあわせる)

Du bist ja nicht ein Sünder

あなたは ~ではない 罪人

あなたは罪人では決してありません、

wie wir und unsre Kinder;

~のように 我々 我々の 子供ら

私たちや、私たちの子供らのように。

von Missetaten weißt du nicht.

~のことを 悪事 知る あなたは ~ない

あなたは悪事について何も知らないのです。

※ von etw wissen(~について知っている)

ペテロの否認

Nr.38a【45】(26:69-73)

福音史家: Petrus aber saß draußen im Palast; und es trat zu ihm eine Magd und sprach:
ペテロは 座っていた 屋外に 屋敷の 近寄った 彼に 一人の女中が 言った

さて、ペテロは屋敷中庭の屋外に座っていた。そこへ一人の女中が彼に歩み寄って言った。

女中1: Und du warest auch mit dem Jesu aus Galiläa. あなたは、あのガリラヤのイエスと一緒にいましたね。
あなたは いた 〜もまた 〜と共に あの イエス ガリラヤの

福音史家: Er leugnete aber vor ihnen allen und sprach: しかしペテロは皆の前でそれを否定して言った。
彼は 否定した しかし 〜の前で 彼ら皆の 言った

ペテロ: Ich weiß nicht, was du sagest. あなたが何を言っているのか、私はわからない。
私は わからない 何を あなたが 言っているか

福音史家: Als er aber zur Tür hinausging, sahe ihn eine andere und sprach zu denen, die da waren:
〜の時 彼が 門へ 出て行った 見た 彼を もう一人の女中が 言った 人々に(指代)(関代)そこに いた

ペテロが門の方へ出て行くと、また一人の女中が彼を見て、そこに居た人々に言った。

女中2: Dieser war auch mit dem Jesu von Nazareth. この人もあのナザレのイエスと一緒にいました。
この人も いた 〜もまた と共に あの イエス ナザレの

福音史家: Und er leugnete abermal und schwur dazu: ペテロは再び否定して、さらに誓って言った。
彼は 否定した 再び 誓った さらに schwören(誓う)の過去 schwor の古形

ペテロ: Ich kenne des Menschen nicht. 私はその人を知らない。
私は 知る その人を 〜ない

福音史家: Und über eine kleine Weile traten hinzu, die da stunden, und sprachen zu Petro:
少しの ひと時 近づいた (関)人々が そこに 立っていた※ 言った ペテロに

少しして、そこに立っていた人々が歩み寄ってきて、ペテロに言った。 hinzu_treten ※旧全集 standen

Nr.38b (26:73) 合唱Ⅱ (ユダヤ人たち)

Wahrlich, du bist auch einer von denen; 確かに、お前もあの人たちの一人だ。
確かに お前は〜だ もまた 一人 あの人の

denn deine Sprache verrät dich. なぜなら、お前の訛りがお前の正体をバラしているぞ。
なぜなら お前の 話し方・訛りが 裏切っている お前を

Nr.38c【46】(26:74-75)

福音史家: Da hub er an, sich zu verfluchen und zu schwören: 彼は、呪い、また誓い始めた。
彼は〜し始めた 呪う 誓う ※an_heben〜し始める

ペテロ: Ich kenne des Menschen nicht. 私はその人を知らない。
私は 知る その人を 〜ない

福音史家: Und alsbald krähete der Hahn. すると直ちに、鶏が鳴いた。
すると すぐに 鳴いた 鶏が

Da dachte Petrus an die Worte Jesu, da er zu ihm sagte:
思い出した ペテロは 言葉を イエスの イエスは ペテロに 言った

ペテロは、イエスの言葉を思い出した。イエスは彼にこう言ったのだった。

※ an ~ denken 〜を思い出す

Ehe der Hahn krähen wird, wirst du mich dreimal verleugnen.
〜の前に 鶏が 鳴く 〜だろう 〜だろう お前は 私を 三度 否認する

「鶏が鳴く前に、お前は三度私を否定するだろう」と。

Und ging heraus und weinete bitterlich.

そして 外へ出て行った 泣いた 痛ましく

そして外に出て、痛ましく泣いた。

Nr.39【47】アリア（アルト）

※4格～erbarmen へに憐れみの念をおこさせる →再帰 sich4格 erbarmen 憐れむ

Erbarme dich, mein Gott,

憐れみ給え 私の 神

憐れみ給え、我が神よ

um meiner Zähren willen !

私の 涙(複2格) へのために

私の涙ゆえに！

※ Zähre = Träne の雅語

※ um 2格～willen(へのために)

Schaue hier,

目を向けよ ここを

ここをご覧ください。

Herz und Auge weint vor dir bitterlich.

心 と 目は 泣く への前で あなた 痛ましく

心も目もあなたの前で痛ましく泣いています。

Nr.40【48】コラール

詞: Johann von Rist(1607-77)「Werde munter, mein Gemüte」第5節 旋律: Johann Schop(1590-1667)

Bin ich gleich von dir gewichen,

私は たとえ～でも あなたから 離れ去った

私は、たとえあなたから離れても、 ※ weichen 離れ去る

※ gleich=obgleich, obwohl, ob たとえ～としても

stell' ich mich doch wieder ein;

現れる 私は だがやはり 再び

きっと再び(あなたの元に)戻ってきます。

※ sich ein_stellen(へに出現する、到来する)

hat uns doch dein Sohn verglichen

(完) 私たちを あなたの 息子が 仲介した

あなたの御子が私たち(神と私)を仲介したのです。

durch sein' Angst und Todespein.

～により 彼の 恐れ 死の苦しみ

彼の怖れと死の苦しみによって。

Ich verleugne nicht die Schuld;

私は 否定しない 罪を

私は罪を否定しません。

aber deine Gnad' und Huld

しかし あなたの 慈悲 と 恩顧は

しかし、あなたの慈悲と恩顧は、

ist viel größer als die Sünde,

大変に 大きい へよりも 罪

罪よりはるかに大きいのです、

die ich stets in mir befinde.

(関代) 私が 常に 私の中に 見いだす

私が常に私の中に見い出す(罪よりも)。

※「あなた」=神、「私たち」=神と私。御子イエスが、神と私の間を仲介して和解させた。

ユダの後悔と自殺

Nr.41a【49】(27:1-4)

福音史家: Des Morgens aber hielten alle Hohenpriester und die Ältesten des Volks

明け方(2格で副詞)

催す

全ての

祭司長たち

長老たち

民の

さて、夜が明けると、全ての祭司長たちと民の長老たちは、

einen Rat über Jesum, dass sie ihn töteten.

協議を イエスについての (接) 彼らは 彼を 殺す

イエスについて協議をして、彼を殺そうとした。

Und bunden ihn, führten ihn hin

縛った 彼を 連行して行った 彼を

そしてイエスを縛って連行していき、 hin_führen

※ bund は binden(縛る)の過去形 band の古語

und überantworteten ihn dem Landpfleger Pontio Pilato.

引き渡した

彼を

総督

ポンティオ・ピラトに

彼を総督ポンティオ・ピラトに引き渡した。

Da das sahe Judas, der ihn verraten hatte,

(指代)〜を見た ユダは (関代) 彼を 裏切った(完)

そのころ、イエスを裏切ったユダは、

dass er verdammt war zum Tode, gereuete es ihn,

(接) 彼が 責めを受けた (受) 死への 後悔させた それは 彼を

イエスが死の弾劾を受けたのを見て、後悔し

※ gereuen 後悔させる

und brachte herwieder die dreißig Silberlinge

返そうと持って行った 30枚の銀貨を

銀貨三十枚を祭司長たちや長老たちに

※ her_bringen 持つてくる、wieder_bringen 返す

den Hohenpriestern und Ältesten und sprach:

祭司長たちに 長老たちに 言った

返そうと持って行き、言った。

ユダ: Ich habe übel getan, dass ich unschuldig Blut verraten habe.

私は (完) 悪い 行った (接) 私は 罪の無い 血を 裏切って売った(完)

私は悪事を行ってしまいました。罪の無い人の血を裏切って売り渡したのです。

福音史家: Sie sprachen:

彼らは 言った

彼らは言った。

※ zu_sehen は「傍観する」なので、ここだけなら「黙って見てる」でもよいかもしれない。しかしこれは後で出てくるピラトの言葉と相似なので、田川建三氏はギリシア語直訳で、どちらも「自分で見るがよい」と訳し、意訳なら新共同訳の「お前の問題だ」がよいと書いている。

Nr.41b (27:4) 二重合唱 (祭司長・長老たち)

Was gehet uns das an? Da siehe du zu!

何が 係わる 我々に それが 見ろ お前が

それが我々に何の関係があるか? 自分で見るがよい!

Nr.41c 【50】(27:5-6)

福音史家: Und er warf die Silberlinge in den Tempel,

彼は 投げた 銀貨を 神殿に

そこで、ユダは銀貨を神殿に投げ込んで、

hub sich davon, ging hin und erhängete sich selbst.

去った そこから 行った 自ら首をつった

そこから立ち去って行き、自ら首をつって死んだ。

Aber die Hohenpriester nahmen die Silberlinge und sprachen:

祭司長たちは 取った 銀貨を 言った

祭司長たちは銀貨を取って言った。

祭司長ら: Es taugt nicht, dass wir sie in den Gotteskasten legen, denn es ist Blutgeld.

これは 適していない (接) 我々が それらを 神殿の献金箱に 入れる なぜなら それは 血の代金

これは神殿の献金箱に入れるのには適さない。なぜならそれは血の代金だから。

Nr.42 【51】アリア(バス)

※ルカ福音書 15章の放蕩息子としてユダを解釈する歌詞であり、ユダを救済・復権している。

Gebt mir meinen Jesum wieder!

返せ 私に 私の イエスを

私のイエスを返せ!

wieder_geben 返す

Seht, das Geld, den Mörderlohn,

見よ この金 人殺しの報酬

見よ、この金の人殺しの報酬だ。

wirft euch der verlorne Sohn

投げ捨てた お前たちに 放蕩息子は

放蕩息子はお前たちの足元に

※ verloren は verlieren の完了分詞。見失われた、迷い込んだ

zu den Füßen nieder!

足元に

(その金を)投げ捨てたではないか!

nieder_werfen 投げ捨てる

Nr.43 【52】(27:7-10)

福音史家: Sie hielten aber einen Rat und kauften einen Töpfersacker

彼らは 催した 協議を 買った 陶工の 畑

彼らは協議をして「陶工の畑」を買った。

darum zum Begräbnis der Pilger.

〜のために 埋葬 巡礼者の

巡礼者の埋葬地にするためである。

Daher ist derselbige Acker genennet der Blutacker bis auf den heutigen Tag.

これにより (完) その 畑は 呼ばれている※ 血の畑 へに至るまで 今日

この事から、その畑は今日に至るまで「血の畑」と呼ばれている。

※ nennen の過去分詞 genannt

Da ist erfüllt, das gesagt ist durch den Propheten Jeremias, da er spricht:

ここに 実現した(過去分詞) 語られた ~を通して 預言者 エレミヤ こう 彼は 語っている

こうして、預言者エレミヤを通して語られたことが実現した。エレミヤはこう語っている。

„Sie haben genommen dreißig Silberlinge, damit bezahlet ward der Verkaufte,

彼らは (完) 取った 30枚の銀貨を それによって 支払った(過去分詞) (完) 売られた者の

「彼らは銀貨三十枚を取り、それによって売られた者の代金を支払った。

welchen sie kauften von den Kindern Israel, (売れた者は)彼らがイスラエルの子から買った者のことである。

(関代) 彼らが 買った ~から イスラエルの子

und haben sie gegeben um einen Töpfersacker, als mir der Herr befohlen hat.“

(完) 彼らは 支払った ~の価格を 陶工の畑 ~のように 私に 主が 命じた (完)

彼らは陶工の畑の代金を支払ったのである。主が私に命じたように。」と。 ※エレミヤ書ではなくゼカリヤ書 11 章をかなり強引な解釈で引用。

総督ピラトの尋問と判決 (27:11-14)

Jesus aber stund vor dem Landpfleger; und der Landpfleger fragte ihn und sprach:

イエスは 立った ~の前に 総督 総督は 問うた 彼に 言った

さて、イエスは総督の前に立った。総督はイエスに問うて言った。

ピラト: Bist du der Jüden König?

お前は~なのか ユダヤ人の王

お前はユダヤ人の王なのか?

※旧全集 Juden

福音史家: Jesus aber sprach zu ihm:

イエスは 言った 彼に

イエスは総督に言った。

イエス: Du sagest's.

お前が そう言った

あなたがそう言っているのだ。

福音史家: Und da er verklagt war von den Hohenpriestern und Ältesten, antwortete er nichts.

イエスは 訴えられていた(受)※ ~から 祭司長たち 長老たち 答えなかった 彼は 何も

イエスは祭司長や長老たちから訴えられていたが、何も答えなかった。

※旧全集 ward

Da sprach Pilatus zu ihm:

言った ピラトは 彼に

するとピラトはイエスに言った。

ピラト: Hörest du nicht, wie hart sie dich verklagen?

聞こえないのか お前は どんなに 厳しく 彼らが お前を 訴えているか

お前は聞こえないのか、どんなに厳しく彼らがお前を告発しているか?

福音史家: Und er antwortete ihm nicht auf ein Wort,

イエスは 答えなかった ピラトに 一言も

だがイエスは彼に一言も答えなかった。

also, dass sich auch der Landpfleger sehr wunderte. それ故また、総督は大変不思議に思った。

それ故 (接) また 総督は 大変 不思議に思った

※ sich verwundern

Nr.44 【53】 コラール

詞: Paul Gerhardt 「Befiehl du deine Wege」第1節 本来は別旋律だが、ここでは C 旋律で歌われる。

Befiehl du deine Wege

委ねよ お前は お前の 道を

委ねよ、お前は、お前の道と、

※ befehen 命令形

und was dein Herze kränkt

(関代) お前の 心を 傷つけている

お前の心を傷つけていることを、

der allertreusten Pflege

全く誠実な 加護に

全く誠実なご加護に

des, der den Himmel lenkt.

(関代) (指代) 天を 操縦する・御する

天を統べる方のご加護に。

Der Wolken, Luft und Winden

(指代) 雲に 大気に そして 風に

gibt Wege, Lauf und Bahn,

与える 道 道筋 軌道を

der wird auch Wege finden,

(指代) だろう また 道を 見つける

da dein Fuß gehen kann.

そこを お前の 脚が 行く できる

その方は雲に、大気に、そして風に対して、

道、道筋、軌道を与えてくださる。

その方が新たな道を見つけてくれるだろう、

お前の脚が歩むことのできる道を。

Nr.45a 【54】(27:15-22)

福音史家: Auf das Fest aber hatte der Landpfleger Gewohnheit, さて、祭の間、総督には慣習があった。
～の間 祭 持っていた 総督は 慣習を

dem Volk einen Gefangenen loszugeben, welchen sie wollten.

民衆に対して 一人の 囚人を 釈放すること(不定詞) (関代) 民衆が 望む ※ los_geben

民衆が希望する囚人を一人釈放するというものである。

Er hatte aber zu der Zeit einen Gefangenen, einen sonderlichen vor andern,

(総督は) 持っていた その頃 一人の 囚人 一人の 特別な ～よりも 他

そのころ、他の者よりも特別な(悪い)囚人がいた。

der hieß Barrabas.

彼の名はバラバといった。

(関代) ～と名乗る バラバ

Und da sie versammelt waren, sprach Pilatus zu ihnen: 人々が集まって来た時、ピラトは彼らに言った。

～の時 人々が 集まった (完) 言った ピラトは 彼らに

ピラト: Welchen wollet ihr, dass ich euch losgebe? お前たちは、私がどちらを釈放することを望むか？
どちらを 望む お前たちは(接) 私が お前たちに 釈放する

Barrabam oder Jesum, von dem gesaget wird, er sei Christus?

バラバか それとも イエスか ～について(関代) 言われている(受) 彼は である キリスト sein(3 単現・接続 I)

バラバか、それともキリストであると言われているイエスか？

福音史家: Denn er wusste wohl, dass sie ihn aus Neid überantwortet hatten.

なぜなら 彼は 知っていた よく (接) 彼らは イエスを ～から 嫉妬 引き渡した (完)

というのは、ピラトはよく分かっていたのである。彼らがイエスを引き渡したのは嫉みからだ。 wissen 過去

Und da er auf dem Richtstuhl saß, schickete sein Weib zu ihm und ließ ihm sagen:

また ～の時 彼が 裁判の席に 座っていた 使者を使わした 彼の 妻が 彼に ～させた 彼に 言う

また、ピラトが裁判の席に座っている時に、彼の妻が彼に使者を遣わして、彼に言わせた。 sitzen, lassen 過去

ピラト妻: Habe du nichts zu schaffen mit diesem Gerechten;

持つな あなたは 何も (不定詞) 事を為す ～と この 正しい人

あの正しい人と、事を構えないでください。 ※ schaffen 事を為す、働く

ich habe heute viel erlitten im Traum von seinetwegen!

私は(完) 今日(昨夜)とても 苦痛を受けた 夢の中で ～がもつて 彼のせいで

彼のせいで、私は昨夜、夢の中で大変な苦痛を受けました。 erleiden 苦痛を受ける, wegen ～のせいで
※ユダヤの暦では、日没以後が「今日」なので heute

福音史家: Aber die Hohenpriester und die Ältesten überredeten das Volk,
しかし 祭司長たち 長老たちは 説得した 民衆を

しかし、祭司長たちや長老たちは、群衆を説得していた。

dass sie um Barrabas bitten sollten und Jesum umbrächten.

※ umbringen 殺す

(接) 彼らが ~のため バラバ 請願する ~べきだ(過去) イエスを 殺す(3 複過去・接続法 II)

バラバの(釈放の)ために請願すべきだ、そしてイエスを殺そう、と。

Da antwortete nun der Landpfleger und sprach zu ihnen:

さて 答えた 今 総督は 言った 彼らに

さて、総督は答えて彼らに言った。

ピラト: Welchen wollt ihr unter diesen zweien, den ich euch soll losgeben?

どちらを 主張する お前たちは ~のうち この二人 (関代) 私が お前たちに ~べき 釈放する

この二人のうち、お前たちは、私がどちらを釈放すべきと主張するのか?

福音史家: Sie sprachen: 彼らは言った。

彼らは 言った

合唱 I II (ユダヤ人たち): **Barrabam!**

バラバを!

バラバを

福音史家: Pilatus sprach zu ihnen:

ピラトは彼らに言った。

ピラトは 言った 彼らに

ピラト: Was soll ich denn machen mit Jesu, von dem gesagt wird, er sei Christus?

何をすべきか 私は では する イエスについて ~に関して(関代) 言われている(受) 彼は キリストである (3 単現・接続 I)

では、キリストであると言われるイエスについては、私はどうすべきなのか?

福音史家: Sie sprachen alle:

彼らはこぞって言った。

彼らは 言った 皆

Nr.45b (27:22) 合唱 I II (ユダヤ人たち)

合唱: **Lass ihn kreuzigen!**

彼を十字架につけろ!

彼を 十字架につけろ

Nr.46 【 55 】 コラール

詞: Johann Heermann 「Herzliebster Jesu」第 4 節 旋律: A

Wie wunderbarlich ist doch diese Strafe!

何という 驚くべき・不思議な それにしても この 刑罰は

それにしても何と驚くべきことだ、この刑罰は!

Der gute Hirte leidet für die Schafe,

良い 羊飼いは 苦しみを受け 羊のために

よい羊飼いが羊のために苦しみを受け、

die Schuld bezahlt der Herre,

罪・責任 負債を支払う 主が

正しい人である主が

der Gerechte, für seine Knechte.

正しい人 ~のために 彼の 下僕

彼の下僕のために、罪の償いをすると!

Nr.47 【 56 】(27:23)

福音史家: Der Landpfleger sagte:

総督は 言った

総督は言った。

ピラト: Was hat er denn Übels getan?

何を (完) 彼は では 悪事を した

いったい彼が何の悪事を行ったのか?

Nr.48 【57】レチタチーヴォ（ソプラノ）

Er hat uns allen wohlgetan,
彼は（完） 我ら全てを 元気づけた
den Blinden gab er das Gesicht,
盲目の人に(複3格) 与えた 彼は 視覚を
die Lahmen macht' er gehend,
麻痺した人を(複4格) ～させた 彼は 行く
er sagt' uns seines Vaters Wort,
彼は 語った 我らに 彼の 父の 言葉を
er trieb die Teufel fort,
彼は 追いやった 悪魔を(複4格)
Betrübte hat er aufgerichtet',
悲しむ人を（完） 彼は 元気づけた
er nahm die Sünder auf und an.
彼は 受け入れた 罪人を(複4格)
Sonst hat mein Jesus nichts getan.
その他に（完） 私の イエスは 何も しなかった

彼は我々皆を元気づけてくれました。
※ wohl_tun 元気づける
彼は目の見えない人に視覚を与え、
麻痺した人を歩いて行かせました。
過去形 machte
彼は私たちに彼の父の言葉を語り、
悪魔を追い払い、
fort_treiben(追い払う)過去形
悲しむ人を元気づけ、
auf_richten 元気づける
罪人を迎え入れました。 ※ auf_nehmen, an_nehmen 受け入れる
それ以外に私のイエスは何もなさいませんでした。

Nr.49 【58】アリア（ソプラノ）

Aus Liebe will mein Heiland sterben,
～から 愛 ～しようとする 私の 救い主は 死ぬ
von einer Sünde weiß er nichts,
～の 一つの 罪 知る 彼は 何も～ない
dass das ewige Verderben
(接) 永遠の 破滅が
und die Strafe des Gerichts
刑罰が 裁きの
nicht auf meiner Seele bliebe.
～ない ～の上に 私の 魂 とどまる(接続法)

愛ゆえに、私の救い主は死のうとしておられます。
彼は一つの罪も知らないのに。
永遠の破滅と
裁きの刑罰が
私の魂の上にとどまらないように、と。

Nr.50a 【59】(27:23)

福音史家: Sie schrienen aber noch mehr und sprachen:
群衆は 叫んだ しかし さらに 一層 言った

しかし、群衆はさらに一層、叫んで言った。

Nr.50b (27:23) 合唱 I II (ユダヤ人たち)

Lass ihn kreuzigen!
彼を 十字架につける

彼を十字架につける！

Nr.50c (27:24-25)

福音史家: Da aber Pilatus sahe, dass er nichts schaffete,
そこで ピラトは 見た (接) 彼が 何もない 事を切り抜ける

ピラトは、自分には何も事を切り抜けるすべはなく、

sondern dass ein viel größer Getümmel ward,
かえって (接) より 大きな 騒動 ～になる ※ ward=werdenの過去 wurdeの古形

かえってより大きな騒動が起こりそうだと見て、

nahm er Wasser und wusch die Hände vor dem Volk und sprach:
取った 彼は 水を 洗った 両手を(複数) ～の前で 民衆 言った

水を取り、民衆の前で両手を洗って、言った。

ピラト: Ich bin unschuldig an dem Blut dieses Gerechten, sehet ihr zu.
私は 罪・責任は無い ～に関して 血 この 正しい人の 見ろ※ お前たちが
この正しい人の血について、私には責任がない。お前たち、自分で見るがよい。 ※ zu_sehen(前出)

福音史家: Da antwortete das ganze Volk und sprach: すると民衆全員が答えて言った。
すると 答えた 全 民衆が 言った

Nr.50d (27:25) 合唱 I II (ユダヤ人たち)

Sein Blut komme über uns und unsre Kinder. 彼の血は、我々とその子孫を襲うがいい。
彼の 血よ 襲え(命令形) 我々 と 我々の 子孫を über 4格 kommen ～を襲う

鞭打ち

Nr.50e (27:26)

福音史家: Da gab er ihnen Barrabam los; そこで、ピラトは彼らにバラバを釈放してやり、
そこで 釈放した 彼は 彼らに バラバを
aber Jesum ließ er geißeln und überantwortete ihn, dass er gekreuziget würde.
一方 イエスを ～させ 彼は 鞭打つ 引き渡した 彼らに ～のため 彼が 十字架につけられる(受)
一方、イエスを鞭打たせ、そして彼を十字架につけるために、彼らに引き渡した。 werdenの3単過去接続法II

Nr.51【60】レチタティーヴォ (アルト)

Erbarm es Gott!
憐れみを 神よ 神よ、憐れみを!
※ 4格～ erbarmen(～に同情の念をおこさせる), だが、この es(4格)は非人称?

Hier steht der Heiland angebunden.
ここに 立つ 救い主は 縛り付けられた
ここに救い主は縛りつけられて立っておられる。
an_binden 縛り付ける

O Geißelung, o Schläg', o Wunden!
おお 鞭打ち 殴打(複数) 傷(複数)
おお、鞭打ち、殴打、傷!

Ihr Henker, haltet ein!
汝ら 死刑執行人 やめろ
お前たち死刑執行人、やめろ!
ein_halten やめる(基本的には命令形で)

Erweicht euch der Seelen Schmerz,
心を動かさないのか お前たちを 魂の 痛みは
魂の痛みは、お前たちの心を動かさないのか?
erweichen 気持ちちを和らげる、心を動かす

der Anblick solches Jammers nicht?
光景は このような 悲歎の ～ないか?
このような悲歎の光景は(心を動かさないのか)?

Ach ja, ihr habt ein Herz,
ああ そうだ お前たちは 持つ 心を
ああ、そうだ！ お前たちは心を持っていても、

das muss der Martersäule gleich
(関代)～違くない 拷問の 柱 ～と同じ
それは拷問の柱と同じようなもの、
Marter 拷問+Säule 柱

und noch viel härter sein.
さらに 多く より厳しい ～である
それよりも一層苛烈なものに違くない。

Erbarmt euch, haltet ein!
憐れめ お前たち やめろ
お前たちよ、憐れみを持って！ やめろ！

Nr.52【61】アリア（アルト）

Können Tränen meiner Wangen

～できる 涙が 私の 頬の

私の頬の涙が

nichts erlangen,

何も～ない 得る

何の役にも立たないとしても、

o, so nehmt mein Herz hinein!

おお 受け入れる 私の 心を

おお、私の心を受け入れてください！

※ hinein_nehmen 組み入れる

Aber lasst es bei den Fluten,

～させる それを ～の側で 流れ

私の心を、その流れの側で使って下さい、

wenn die Wunden milde bluten,

～の時 傷が 緩やかに 血を流す

その傷が緩やかに血を流す時、

auch die Opferschale sein!

捧げ物の器 ～である

(その血を受ける)捧げ物の器として！

läßt es die Opferschale sein(それを器とならしめよ)

Nr.53a【62】(27:27-29)

福音史家: Da nahmen die Kriegsknechte des Landpflegers Jesum zu sich in das Richthaus

引き入れる 兵士たち 総督の イエスを ～の中へ 官邸

それから、総督の兵士たちは、イエスを総督官邸の中に引き入れ、 4 格 zu sich nehmen ～を引き取る

und sammelten über ihn die ganze Schar

集めた ～の周囲に 彼の 全 部隊を

部隊全員をイエスの周りに集めた。

und zogen ihn aus und legeten ihm einen Purpurmantel an

服を脱がせた ～を着せた 彼に 紫の外套を

そして、イエスの服を脱がして、紫の外套を着せ、 ※ aus_ziehen(服を脱がす)、an_legen(～を着せる)

und flochten eine dornene Krone und satzten sie auf sein Haupt

編んだ 茨の 冠を 載せる・持たせる※ それを 彼の頭の上に

茨の冠を編んで、それを彼の頭に載せ、 ※ satzten は sie(Krone)と次行の Rohr の2つに係る

setzen 過去形 setzten の古語

und ein Rohr in seine rechte Hand und beugeten die Knie vor ihm

葦を 彼の 右の 手に そして 曲げる 膝を 彼の前で

また、右手に葦を持たせて、彼の前にひざまずき、

und spotteten ihn und sprachen:

嘲った 彼を 言った

彼を嘲って言った。

Nr.53b (27:29) 二重合唱 (兵士たち)

Gegrüßet seist du, Jüdenkönig!

挨拶を受けよ お前 ユダヤの王よ

ごきげんよう、ユダヤの王よ！

※旧全集 Juden-

Nr.53c (27:30)

福音史家: Und speieten ihn an und nahmen das Rohr und schlugen damit sein Haupt.

唾を吐きかけた 彼に 取り上げた 葦 打った それで 彼の 頭を

また、彼に唾を吐きかけ、葦を取り上げて、それで彼の頭を叩いた。

an_speien 唾を吐きかける

Nr.54 【 63 】 コラール

詞: Paul Gerhardt 「O Haupt voll Blut und Wunden」第 1・2 節 旋律:C

O Haupt voll Blut und Wunden,

おお 御頭よ に充ちた 血 と 傷に

おお、血と傷にまみれた御頭よ、

voll Schmerz und voller Hohn,

に充ちた 苦痛 と たくさんの 嘲笑に

苦痛と、嘲笑に充ちた(御頭よ)、

o Haupt, zu Spott gebunden

おお 御頭よ 嘲りのために 縛られた

おお、嘲りのために

mit einer Dornenkron',

～で 茨の冠

茨の冠で縛られた御頭よ、

o Haupt, sonst schön gezieret

おお 御頭よ さもなければ 美しく 飾られた

おお、御頭よ、さもなければ美しく

mit höchster Ehr' und Zier,

～で 最高の 栄誉 と 装飾(誇り)※(雅)Zierde

最高の栄誉と誇りで飾られていたのに、

jetzt aber hoch schimpfieret,

今や しかし 甚だしく 誹謗された

今や甚だしく辱められた(御頭よ)、

gegrüßet seist du mir!

挨拶を受けて下さい あなたは 私の

私の心からの挨拶を受け入れてください。

Du edles Angesichte,

汝 高貴な 御顔よ

汝、気高き御顔よ、

dafür sonst schrickt und scheut

それに対し※ さもなければ 畏怖し そして 驚く

いつもなら世の権威すらも ※旧全集 dafür ではなく vor dem
(コラール歌詞のサイトでは davor)

das große Weltgewichte,

大きな 世の権威が

(あなたの御顔に)畏怖し驚くものを。

wie bist du so bespeit,

こんなにも あなたは 唾をかけられ、

あなたはかくも唾をかけられ、

wie bist du so erleuchtet!

何と あなたは 蒼ざめている

何と蒼ざめておられることか！

Wer hat dein Augenlicht,

誰が (完) あなたの 眼の輝きを

あなたの眼の輝き、

dem sonst kein Licht nicht gleicht,

(関代) さもなければ どの光も 匹敵するものはない

それは、本来どんな光とも比べられないものなのに、※

※二重否定の形だが肯定ではない(文法的にはおかしい)

so schändlich zugericht'?

そんなにも 卑劣に 損ねたのか

誰が、そんなにも卑劣に損ねたのですか？

※ zu_richten(損ねる、ひどい目にあわせる)

ゴルゴタ・十字架

Nr.55 【 64 】(27:31-32)

福音史家: Und da sie ihn verspottet hatten,

彼らは イエスを 嘲った (完)

彼ら(兵士たち)はイエスを嘲弄して、

zogen sie ihm den Mantel aus und zogen ihm seine Kleider an

脱がせた 彼らは イエスに 外套を 着せた 彼に 彼の 服を

外套を脱がせて、彼の(元の)服を着せ、

※ an_ziehen(着せる)

und führten ihn hin, dass sie ihn kreuzigten.

連行していった 彼を ～ために 彼らが 彼を 十字架につける

彼を十字架につけるために連行して行った。

Und indem sie hinausgingen,

～する時 彼らが 出て行く

彼らは、出て行く時に、

funden sie einen Menschen von Kyrene mit Namen Simon;

見いだした※ 彼らは 一人の男 ～の キレネ ～という名の シモン

シモンという名前のキレネ人を見だし、

※旧全集 fanden

den zwingen sie, dass er ihm sein Kreuz trug.

(関代) 強いた※ 彼らは (接) シモンが イエスに 彼の十字架を 背負う

彼に強制して、イエスの十字架を担がせた。

※旧全集 zwingen。zwingenの過去形。zwungは古語

Nr.56【65】レチタティーヴォ（バス）

Ja freilich will in uns das Fleisch und Blut

そう もちろん ～だろう 我らの中の 肉体 と 血は

そう、もちろん、私たちの中の肉と血は

zum Kreuz gezwungen sein;

十字架に 強いられる (現在完了・受動)

十字架につけられることを強いられるだろう。

gezwungen werden seinの werdenが省略

je mehr es unsrer Seele gut,

そう なおさら 私たちの 魂に 良い

私たちの魂にとって良いものほど、

je herber geht es ein.

そう 苦い 詰まるどころ

結局、より苦いものになるのだから。 ※ ein gehen 詰まる

Nr.57【66】アリア（バス）

Komm, süßes Kreuz, so will ich sagen,

来たれ 甘い 十字架よ そう ～しよう 私は 言う

来たれ甘き十字架よ、そう私は言おう。

mein Jesu, gib es immer her!

私の イエスよ 与えよ それを 常に こちらへ

私のイエスよ、それを私にずっと背負わせて下さい。

Wird mir mein Leiden einst zu schwer,

～になったら 私にとって 私の 苦難が いつか 重すぎる

いつか、私の苦難が私に重すぎるものになったら、

so hilfst du mir es selber tragen.

助けよ あなたは 私を それを 自ら 背負う

私が自分で背負えるよう助けてください。

Nr.58a【67】(27:33-40)

福音史家: Und da sie an die Stätte kamen mit Namen Golgatha, das ist verdeutschet Schädelstätt,

彼らは ～に 場所 来た ～という名の ゴルゴタ (関代) ドイツ語で～という されこうべの場所

そして彼らは、ゴルゴタという名の、翻訳すると「されこうべの場所」という所に来ると、

gaben sie ihm Essig zu trinken mit Gallen vermischt;

与えた 彼らは イエスに 酢 飲む(不定詞) ～と 胆汁 混ぜ合わされた

イエスに、胆汁を混ぜた酢(になった葡萄酒)※を与え飲ませようとしたが、

※ギリシア語原文は「胆汁を混ぜた葡萄酒」

und da er's schmeckete, wollte er's nicht trinken.

彼はそれを なめた 望む 彼はそれを ～ない 飲む

イエスはなめただけで、飲もうとはしなかった。

Da sie ihn aber gekreuziget hatten, teilten sie seine Kleider und warfen das Los darum,

彼らは イエスを 十字架につけた (完) 分けた 彼らは 彼の 衣服を 投げた※ くじ そのために

さて、彼らはイエスを十字架につけると、彼の服を分け、そのために籤を引いた。

auf dass erfüllet würde, das gesagt ist durch den Propheten:

～のために 実現される (受) (指代) 語られた ～によって 預言者

それは、預言者によって語られたことが実現するためであった。

„Sie haben meine Kleider unter sich geteilet,

彼らは (完) 私の 衣服を ～の間で 彼ら 分けた

「彼らは私の服を分け合い、

und über mein Gewand haben sie das Los geworfen.“

～に関して 私の 衣服 (完) 彼らは くじを 投げた

私の衣服のことで籤を引いた」と。

Er hat Gott vertrauet,

彼は 神を 信頼している※

彼は、神を信頼している。

der erlöse ihn nun, lüsted's ihn; denn

(関代) 救え(命令) 彼を 今 ※望む 神が なぜなら

神よ、お望みなら、今すぐ彼を救ってやれ。なぜなら、

er hat gesagt: Ich bin Gottes Sohn.

彼は 言っていた 私は 神の 子

彼はこう言っていたのだから。「私は神の子だ」と。

※古語 lüsten…非人称動詞。es lüsted 4 格〜で「〜が望む」。

ここでは「lüsted es ihn」の ihn は「神」をさすので、「神がお望みならば」となる(倒置による仮定法)。

※詩篇 22:9「彼は主が救ってくれると信じていた。主が望むなら、主に彼を救わせよ」→メサイア第 28 曲

Nr.58e【68】(27:44)

過去完了・受動 gekreuziget werden waren の werden が省略

福音史家: **Desgleichen schmäheten ihn auch die Mörder, die mit ihm gekreuziget waren** ※。

同様に 誹謗した イエスを 〜もまた 殺人者たち (関代) 彼とともに 十字架につけられた(過去完了・受動)

一緒に十字架につけられた殺人者たちもまた、同じようにイエスを誹謗した。

※旧全集では wurden(過去・受動)

Nr.59【69】レチタティーヴォ (アルト)

Ach Golgatha, unsel'ges Golgatha!

ああ ゴルゴタよ 呪われた ゴルゴタよ

ああゴルゴタよ、呪われたゴルゴタよ!

Der Herr der Herrlichkeit

主は 栄光の

栄光の主は

muss schimpflich hier verderben,

〜ねばならぬ 屈辱的に ここで 死ぬ

ここで屈辱的に死なねばならない。

der Segen und das Heil der Welt

祝福は 救いは 世の

この世の祝福と救いは

wird als ein Fluch ans Kreuz gestellt.

(受) 〜として 呪い 十字架に 架けられた

十字架に呪いとして架けられた。

Der Schöpfer Himmels und der Erden

創造者は 天の 地の

天と地の創造者は、

soll Erd und Luft entzogen werden.

〜ことになる 大地 と 大気を 奪われる (受)

大地と大気を奪われることになる。

entziehen(奪う)

Die Unschuld muss hier schuldig sterben,

無罪の人が 〜ねばならぬ ここで 有罪で 死ぬ

無罪の人がここで有罪で死ななければならず、

das gehet meiner Seele nah.

それが 悲しませる 私の 魂を

それが私の魂を※悲しませるのだ。 ※ nahe gehen

Ach Golgatha, unsel'ges Golgatha!

ああ ゴルゴタよ 呪われた ゴルゴタよ

ああゴルゴタよ、呪われたゴルゴタよ!

Nr.60【70】アリアと合唱Ⅱ

Alt : **Sehet, Jesus hat die Hand,**

見よ イエスは (完) 手を

見よ、イエスは、私たちを抱こうと、

uns zu fassen, ausgespannt. Kommt!

私たちを 抱くために 広げた 来なさい

その手を広げました。来なさい!

合唱: **Wohin ?**

どこへ

どこへ?

Alt : **In Jesu Armen**

〜の中へ イエスの 腕

イエスの腕の中へ。

sucht Erlösung, nehmt Erbarmen, suchet

求めよ 救いを 受け取れ 憐れみを 求めよ

救いを求め、憐れみを受けよ。求めよ！

合唱: **Wo ?**

どこに

どこに？

Alt : **in Jesu Armen!**

～の中に イエスの 腕

イエスの腕の中に。

Lebet, sterbet, ruhet hier,

生きよ 死ね 憩え ここに

ここで、生き、死に、憩いなさい。

ihr verlassnen Küchlein ihr, bleibt

汝等 見捨てられた ひな鳥たちよ 留まれ

汝ら見捨てられた雛鳥たちよ。留まりなさい！

verlassen は原形・完了分詞が同形だが、完了分詞の異形が verlassen?

合唱: **Wo ?**

どこに

どこに？

Alt : **in Jesu Armen!**

～の中に イエスの 腕

イエスの腕の中に

※この詞は、十字架上のイエスが腕を広げて我らを抱こうとしているかのようなイメージを描いている。

ここで冒頭合唱と同じく、第1合唱(シオンの娘)に属するアルトが、第2合唱(信ずる者たち)と、そのイメージを共有しようと呼びかけている。

イエスの死

Nr.61a [71](27:45-47)

福音史家: **Und von der sechsten Stunde an**

～から後 第6時

さて、第6時(=正午)から後、

※ von ~ an(～から後)

war eine Finsternis über das ganze Land bis zu der neunten Stunde.

※～だった 暗闇が ～を覆った 全ての 地 ～まで 第9時 ※旧全集 ward

暗闇が全地を覆い、それが第9時(=午後三時)まで続いた。

Und um die neunte Stunde schrie Jesus laut und sprach:

～の頃 第9時 叫んだ イエスは 大声で 言った

第9時頃、イエスは大声で叫んで言った。

イエス: **Eli, Eli, lama asabthani?**

エリ、 エリ、 ラマ、 サバクタニ

エリ、エリ、ラマ、サバクタニ？

※ヴルガータ聖書のラテン語では Eli, Eli, lamma sabacthani? (ギリシア語 Ηλι ηλι λμμα σαβακθανι)。

マルコ福音書では Eloi, Eloi, lamma sabacthani?(ギリシア語 Ελωι ελωι 以下同)と、イエスの日常語であったアラム語で書かれているが、

マタイ福音書の著者はこれをヘブライ語に直している。しかしルター訳ではマルコでも Eli, Eli と書いている。

このイエスの言葉は詩篇第 22 章第 1 節を唱えたのだ、という解釈がある。

ルターもそれを踏まえて、マルコでも、旧約の詩篇と同じヘブライ語で表記し、双方の対応を図ったのであろう。

ちなみにルターによる詩篇の当該箇所(の翻訳は、「Mein Gott, mein Gott, warum hast du mich verlassen?」である。

福音史家: **Das ist: Mein Gott, mein Gott, warum hast du mich verlassen?**

これは～である 我が 神よ 我が 神よ どうして (完)あなたは 私を 見捨てた(完形・原型同型)

これは、「わが神よ、わが神よ、なぜ私を見捨てたのですか？」という意味である。

Etliche aber, die da stunden, da sie das höreten, sprachen sie:

何人かは だが (関代)そこに 立っていた 彼らは これを 聞いた 言った 彼らは

だが、そこに立っていた何人かは、これを聞いて、言った。

Nr.61b (27:47) 合唱 I (ユダヤ人たち)

Der rufet dem Elias !

(指代) 呼びかけている エリヤに

彼はエリヤに呼びかけているのだ！

※ j-m rufen(3 格支配、～に呼びかける)

Nr.61c (27:48-49)

福音史家: Und bald lief einer unter ihnen, nahm einen Schwamm und füllte ihn mit Essig

すると すぐに 走った 一人が 彼らのうちの 取った 海綿を 満たした それ(海綿)を 酢で

するとすぐに彼らの一人が走りよって、海綿を取って酢(になった葡萄酒※)を含ませ、
※ギリシア語原文も「酢」だが、前出の「酸っぱい葡萄酒」と同じものだろう。

und steckete ihn auf ein Rohr und tränkete ihn. Die andern aber sprachen.

刺した それを ~の先端に 葦 飲ませた イエスに 他の人々は だが 言った

それを葦の先に付けて差しだし、彼に飲ませた。だが、他の人々は言った。 tranken 飲ませる

Nr.61d (27:49) 合唱 II (ユダヤ人たち)

Halt ! Lass sehen, ob Elias komme und ihm helfe ?

待て 見よう ~かどうか エリヤが 来て 彼を 救う

待て！見ていよう、エリヤが来て彼を救うかどうかを。

Nr.61e (27:50)

福音史家: Aber Jesus schrie abermal laut und verschied.

だが イエスは 叫んだ もう一度 大声で 死んだ

だが、イエスは再び大声で叫び、亡くなった。

verscheiden 死ぬ

Nr.62 【 72 】 コラール

詞: Paul Gerhardt 「O Haupt voll Blut und Wunden」第9節 旋律:C

Wenn ich einmal soll scheiden,

~の時 私が いつか ~べき 去る

いつか私が(この世から)去るべき時、

so scheide nicht von mir.

その時は 離れないで ~から 私

私から離れないでください。

Wenn ich den Tod soll leiden,

~の時 私が 死 ~べき 苦しむ

私が死に苦しまねばならぬ時、

so tritt du denn herfür !

姿を現せ あなたは ※その時は

その時は、姿を現してください！

※ denn → 旧全集では dann

herfür = hervor, hervor_treten 姿を現す

Wenn mir am allerbängsten

~の時 私が ~の側で この上ない不安(形→名)

私が、この上ない不安によって

※ mir が意味上の主語

wird um das Herze sein,

~だろう ~の周り 心(4格) (不定詞)

心を包圍されるであろう時、

so rei mich aus den Ängsten

引きはがせ 私を ~から 不安(複)

私を不安から引きはがして下さい！

kraft deiner Angst und Pein !

力によって※ あなたの 不安の と 苦痛の

あなたの不安と苦痛の力によって。

※前置詞 kraft(~の力によって、2格支配)

Nr.63a 【 73 】(27:51-54)

福音史家: Und siehe da, der Vorhang im Tempel zerriss in zwei Stück von oben an bis unten aus.

見よ(命令) 垂れ幕が 神殿の 裂けた 2つの 切片 上から 下まで

すると見よ、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。

Und die Erde erbebete, und die Felsen zerrissen,

大地が 震えた 岩が 裂けた(完分)

そして大地が震え、岩が裂け、

und die Gräber taten sich auf, und stunden auf viel Leiber der Heiligen, die da schliefen,

墓が(複数) 開いた 立ち上がった 多くの 身体が 聖者たちの (関代) そこで 眠っていた

墓が開いて、そこで眠っていた多くの聖者たちの体が目覚め立ち上がった。

※ sich auf_tun(開く)

3複過去形 taten の古形

und gingen aus den Gräbern nach seiner Auferstehung

～から出てきた 墓 ～の後 彼の※ 復活

※「聖者たちの復活」ならば ihrer Auferstehung。

そして、※彼(イエス)の復活の後、墓から出て来て、

よってここは「イエスの復活」以外に解釈不能。

und kamen in die heilige Stadt und erschienen vielen.

～へ入っていった 聖なる 都市 現れた 多くの人々に

聖なる都に行き、多くの人々の前に現れた。

Aber der Hauptmann und die bei ihm waren und bewahreten Jesum,

百人隊長は と 人々は 彼の側に いた 見張っていた イエスを

さて、百人隊長と、彼とともにいて、イエスを見張っていた人たちは、

da sie sahen das Erdbeben und was da geschah, erschrakten sie sehr und sprachen:

彼らは 見た 地震を (関代) そこで 起こった 驚いた 彼らは とても 言った

地震や起こった事を見て、大変に驚いて、言った。

geschehen 起こる

Nr.63b (27:54) 合唱 I II (百人隊長、および彼とともにいた人々)

※マルコ福音書では百人隊長の独自になっている。

Wahrlich, dieser ist Gottes Sohn gewesen.

真に この人は 神の 子 であった

真に、この人は神の子だったのだ。

降架と埋葬

Nr.63c (27:55-58)

福音史家: Und es waren viel Weiber da, die von ferne zusahen,

～がいた 多くの 女たちが そこに (関代) 遠くから 眺めていた

前出の zu_sehen だがここでは「眺める」

またそこには、大勢の婦人たちがいて、遠くから見ていた。

die da waren nachgefolget aus Galiläa und hatten ihm gedienet,

(関代) (完) あとに従ってきた ～ ガリラヤ (完) 彼に 仕えた

この婦人たちは、ガリラヤから(イエスに)従ってきて、彼に仕えていたのである。

unter welchen war Maria Magdalena,

～の中に (関代) いた マリア マグダラの

その中には、マグダラのマリア、

und Maria, die Mutter Jacobi und Joses,

マリア (関代) 母 ヤコブとヨゼフの

ヤコブとヨゼフの母マリア※、

※イエスの母のこと

und die Mutter der Kinder Zebedäi.

母 子たちの ゼベダイの

ゼベダイの子たちの母がいた。

Am Abend aber kam ein reicher Mann von Arimathia, der hieß Joseph,

夕方 来た 富裕な 男 アリマティア出身の (関代) 称する ヨゼフ

さて、夕暮れになり、アリマティアの金持ちの男でヨセフという人が来た。

welcher auch ein Jünger Jesu war,

(関代) ～もまた 弟子 イエスの であった

この人もまたイエスの弟子であった。

der ging zu Pilato und bat ihn um den Leichnam Jesu.

(関代) 行った ピラト 願った 彼に ～を求めて 遺体 イエスの

bat=bitten(願う)の過去

彼はピラトのところに行って、イエスの遺体を求めて、ピラトに願い出た。

Da befahl Pilatus, man sollte ihm ihn geben.

そこで 命じた ピラトは ～べき ヨセフに イエスを 与える

そこでピラトは、(man 不定代名詞、誰か然るべき者が)、ヨセフに(ihm)イエスを(ihn)渡すべし、と命じた。

Nr.64【74】レチタティーヴォ（バス）

Am Abend, da es kühle war,

夕暮れ 涼しい

ward Adams Fallen offenbar;

～になった アダム の 墮落は 明らか

am Abend drücket ihn der Heiland nieder.

夕暮れ 克服した それを 救い主は

Am Abend kam die Taube wieder

夕暮れ 戻って来た 鳩が

und trug ein Ölblatt in dem Munde.

運んできた オリーブの葉 口に(くわえて)

O schöne Zeit! O Abendstunde!

おお 美しい 時 おお 夕暮れの時

Der Friedensschluss ist nun mit Gott gemacht,

平和の終末が (完) 今 神とともに 成った

denn Jesus hat sein Kreuz vollbracht.

なぜなら イエスが (完) 彼の 十字架を 成し遂げた

Sein Leichnam kömmt zur Ruh,

彼の 遺体は 向かう 安らぎへ

ach, liebe Seele, bitte du,

ああ 愛する 魂よ 願え 汝よ

geh, lasse dir den toten Jesum schenken,

行け ～させる 汝に 死んだ イエスを 賜う

o heilsames, o köstlich's Angedenken!

おお 救済となる 貴重な 形見・記念品

夕暮れの涼しい時、

アダムの墮落は明らかになった。

※墮落=Fall(男単1), Fallen(中単1)→次行 ihn(男単4)

夕暮れに、救い主はそれ(その墮落)を克服された。

※ nieder_drücken(押さえつける)

夕暮れに、鳩が戻ってきた、

※ wieder_kommen(戻ってくる)

そして一枚のオリーブの葉を口にくわえていた。

おお、美しい時よ！ おお、夕暮れの時！

平和の結末が今、神とともに完成した。

イエスが十字架を成し遂げたからである。

彼の亡骸は、安らぎに向かう。

ああ、愛する魂よ、願うがよい。

行って、死んだイエスをお前に賜うように。

おお、救いとなる、貴重な形見よ！

※ heilsam(有益な、救済的な)

※「夕暮れ」は、アダムとイブが神に禁断の実を食べたことがばれた時であり(創世記 3:8、涼しい時と書かれている)、またノアの箱船に鳩がオリーブの葉をくわえて戻った時(同 8:11)でもあった。よって夕暮れのイエスの死は、罪が明らかになったと同時に救いの時でもある、という詞になっている。

Nr.65【75】アリア（バス）

Mache dich, mein Herze, rein,

～せよ 汝を 私の 心よ 清める

ich will Jesum selbst begraben.

私 ～しよう イエスを 自ら 埋葬する

Denn er soll nunmehr in mir

なぜなら 彼は ～べき 今や 私の内で

für und für

永遠に

seine süße Ruhe haben.

彼の 甘い 憩いを 持つ

Welt, geh aus, lass Jesum ein!

世よ 出て行け 中に入れよ イエスを

私の心よ、汝を清めよ。

私はイエスを自ら(の内に)葬ろう。

なぜなら彼は、今や、私の内で

永遠にいつまでも

甘い憩いを享受し続けるのだから。

世よ、出て行け。イエスを中へ迎え入れよ！

※ ein_lassen

Nr.66a [76](27:59-63)

福音史家: Und Joseph nahm den Leib und wickelte ihn in ein rein Leinwand

ヨゼフは 取った 遺体を 包んだ イエスを きれいな 亜麻布に

ヨゼフはイエスの遺体を受け取ると、それをきれいな亜麻布に包み、

und legte ihn in sein eigen neu Grab, welches er hatte lassen in einen Fels hauen,

据えた 彼を ヨゼフの 固有の 新しい 墓 (関代) ヨゼフが (完)~させた ~に 岩 掘る

ヨゼフ自身の新しい墓の中に横たえた。それは彼が岩を掘って作らせたものであった。

und wälzete einen großen Stein vor die Tür des Grabes und ging davon.

転がした 大きな 石を ~の前に 入口 墓の 立ち去った そこから

墓の入口には大きな石を転がしておき、立ち去った。

Es war aber allda Maria Magdalena und die andere Maria,

~かいた しかし そこに マリアは マグダラの もう一人のマリアは※

しかし、マグダラのマリアと、もう一人のマリア※はそこにおいて、 ※イエスの母のこと

die satzten sich gegen das Grab.

墓の方を向いて座っていた。

(関代) 座っていた ~に対して 墓

Des andern Tages, der da folget nach dem Rüsttage,

明くる日(2格で副詞) (関代) 続く ~の後に 準備の日

明くる日、すなわち、「安息日の準備の日」の翌日、※

kamen die Hohenpriester und Pharisäer sämtlich zu Pilato und sprachen:

来た 祭司長たち ファリサイ派の人たちは 皆こぞって ピラトの所へ 言った

祭司長たちとファリサイ派の人々は、皆残らず、ピラトのところに来て、言った。

※ Rüsttage 安息日の準備の日＝金曜日。その翌日は安息日＝土曜日に決まっている。

マタイ著者は、この日にこんな謀議をすることが安息日規定に違反するのでは、と思い、ユダヤ教幹部に付度して、ボカして書いたのだろう。

(マタイ著者は、ユダヤ教からキリストを解説しようとした人であり、律法をないがしろにする態度はとっていない。)

Nr.66b (27:63-64) 合唱 I II (祭司長たち、ファリサイ派の人たち)

Herr, wir haben gedacht, dass dieser Verführer sprach, da er noch lebete:

総督閣下 私たちは 思い出しました (接) この 誘惑者は 言った の時 彼が まだ 生きていた

閣下、私たちは思い出しました。この誘惑者は生前言っていました、

Ich will nach dreien Tagen wieder auferstehen.

私は だろう ~の後 三日 再び 復活する

「自分は三日後に復活するだろう」と。

Darum befiehl, dass man das Grab verwahre bis an den dritten Tag,

だから 命じよ (接) (不定代) 墓を 保護する ~まで 三日目

ですから、命令してください、三日目まで墓を見張るように、と。

auf dass nicht seine Jünger kommen und stehlen ihn und sagen zu dem Volk:

~するため ~ない 彼の 弟子たちが 来て 盗んで 彼を 語る 民衆に

そうでないと、弟子たちが来て死体を盗み出し、民衆に言いふらすかもしれません。

Er ist auferstanden von den Toten,

彼は 復活した ~から 死者たち

「イエスは死者の中から復活した」と。

und werde der letzte Betrug ärger denn der erste!

すると なるだろう 最後の 詐欺は より酷く ~よりも 最初

そうなると、今度のその詐欺は、以前よりもっとひどくなるでしょう。

Nr.66c (27:65-66)

福音史家: Pilatus sprach zu ihnen:

ピラトは 言った 彼らに

ピラトは彼らに言った。

ピラト: Da habt ihr die Hüter; gehet hin und verwahret's, wie ihr's wisset!

持っている 汝等は 番人 行け 見張れ(それを) ~のように 汝等がそれを 心得ている

お前たちには番兵がいるのだから、行って墓を見張らせよ。お前たちが思うように。

福音史家: Sie gingen hin und verwahreten das Grab mit Hütern und versiegelten den Stein.

彼らは 行った 見張った 墓を 番人を使って 封印した 石に

彼らは行って、番兵をつけて墓を見張らせ、墓の石に封印をした。

哀悼

Nr.67【77】独唱 & 合唱Ⅱ

Baß : Nun ist der Herr zur Ruh gebracht.

今や (完) 主は 憩いに 至った

今や主は憩いに至りました。

※ gebracht=bringen(連れて行く、もたらす)の完了分詞

Ten : Die Müh' ist aus, die unsre Sünden ihm gemacht.

苦勞 終わった (関代) 我々の 罪が 彼に もたらした

我々の罪が彼にもたらした苦勞は終わりました、

Alt : O selige Gebeine, seht, wie ich euch mit Buß und Reu beweine,

おお 清い 遺骸よ 見よ 如何に 私が あなたを ~と共に 懺悔 と 後悔 悼む

おお、聖なる亡骸よ。見よ、いかに私が、懺悔と後悔とともに、あなたを悼んでいるかを。

dass euch mein Fall in solche Not gebracht!

(接) あなたに 私の 墮落が ~に このような 苦痛 もたらした

私の墮落があなたにこんな苦痛をもたらしたのです。

※ euch, euer(敬意の複数形、あなたに、あなたの)

Sop : Habt lebenslang vor euer Leiden tausend Dank,

あなたにあれ(※) 生涯 ~の前に ※あなたの受難 たくさんの感謝を

※ habt(ihr への命令形)も敬意の複数形。次行 ihr も。

命ある限りずっと、あなたの受難にたくさんの感謝を捧げます。

dass ihr mein Seelenheil so wert geacht'.

(接) ※あなたは 私の 魂の救いを そんなに 大切に 配慮した(完分)

※ achten(留意する、配慮する)

あなたは、私の魂の救いを、こんなに大切に配慮して下さったのですから。

合唱: Mein Jesu, gute Nacht !

私の イエスよ おやすみなさい

私のイエスよ、おやすみなさい！

Nr.68【78】二重合唱

Wir setzen uns mit Tränen nieder

我々は ひざまずく 涙とともに

私たちは涙してひざまずき ※nieder_setzen

und rufen dir im Grabe zu,

呼びかける あなたに 墓の中の

そして、墓の中のあなたに呼びかけます。 ※zu_rufen

Ruhe sanfte, sanfte ruh'!

憩え 安らかに 安らかに 憩え

安らかにお休みください、安らかに。

Ruht, ihr ausgesognen Glieder!

憩え あなた 吸いつくされた 手足

Ch1 お休みください、疲れ果てた御体よ！

※ aus_saugen(吸いつくす)の完了分詞

Ruhet sanfte, ruhet wohl!

憩え 安らかに 安らかに 心地よく

Ch2 安らかにお休みください、心地よく。

Euer Grab und Leichenstein

あなたの 墓 と 遺体を覆う石は

Ch1 あなたの墓と墓石は、

soll dem ängstlichen Gewissen

〜べき 不安げな 良心にとつて

不安げな良心にとつて

ein bequemes Ruhekissen

快適な 憩いの枕

心地よい憩いの枕、

und der Seelen Ruhstatt sein.

魂の 憩いの場 である

魂の憩いの場となるべきもの。

Ruhet sanfte, sanfte ruht!

憩え 安らかに 安らかに 憩え

Ch2 安らかにお休みください、安らかに。

Höchst vergnügt

最高に 麗らかに

Ch1 この上なく麗らかに、

schlummern da die Augen ein.

眠りこむ そこで その眼は

その眼はそこで眠りにつくでしょう。

※ ein_schlummern 眠り込む、(内への方向性を持つ分離前綴 ein_)

あとがきに代えて

(1). Wahrlich ich sage euch(dir).と Amen

イエスの言葉としてルター訳で Wahrlich ich sage euch(dir).とある場合、その Wahrlich はギリシア語・ラテン語の聖書では「Amen」となっている。(ラテン語ヴルガータ聖書で「Amen dico vobis」、dico=私は言う、vobis=あなた方に)

ヘブライ語の Amen は、ユダヤ教でも、今日のキリスト教でも、他者の言った事に対して同意を示す言葉である。時代劇の「御意」と同じで「仰せの通り」という意味である。

しかしイエスはこの言葉を、こうした腰巾着的な使い方から解放した。まず、自分が何か言った直後に Amen 「こうでなくてはならないのだ！」と言い切った。さらには、自分が何か決定的な事を言う前にまず「Amen」と宣言した。これがルターによって Wahrlich と訳されているのである。もちろん「私の福音が宣べ伝えられるところでは云々」ということは実在のイエスは言わなかったろう。しかし Amen で始まる言い方が、イエスの特徴だったことは間違いない。

(2). Du sagest's.について

イエスは各福音書で、「メシアなのか」「王なのか」と問われると、必ず「Du sagest's.それはお前の言っていることだ」と言い返す。これについては別稿「イエスの言葉 Du sagest's.の訳について」で詳述してある(http://classic.music.coocan.jp/pdf/Du_sagest's.pdf 参照)。

当マタイ受難曲では、第 36 曲 a (26:64、対大祭司)と第 43 曲 (27:11、対ピラト)で、イエスは Du sagest's.と言い返している。ここでのパッサの作曲は力強い下降音型だ。ところが第 11 曲(26:25)、ユダが「私が裏切ったのですか？」と問うたのに対し、同じく Du sagest's.と答える所は4度の上昇音型で雰囲気がいびく違う。

この部分について磯山雅氏は大著「マタイ受難曲」p.203で

ルター訳のドイツ語に関する限り、ここははっきりとした肯定と理解すべきである。(中略)

(ドイツ語の口語では今日でも「その通りだ」という意味にこの言葉を使う。)

パッサもこの句を、ト短調の明確なカデンツをなすように作曲しており、あいまいな含みを残していない。

と書かれているが、賛同できない。

大祭司やピラトとの問答での下降音型と、ユダへの上昇音型は、全く雰囲気が異なる。このパッサの曲は、イエスがユダに対して呆れた、残念に思う気持ちを表しているようにしか感じられないのである。これがまた、田川建三氏の「お前がそう言うのか？」という名訳にピッタリなのである。

その他の所についても、そもそも「ユダヤの王なのか」と問われたイエスが「そうだ」と答えるわけではない。「それはお前が言っていることだろ」のほうがイエスの強烈な人格をよく表現できるし、パッサの作曲とも矛盾しない、と考える。

(ヨハネ受難曲でのヨハネ 18:37 は例外。ここはルターの意図的な誤訳のせいで、「その通り、私は王だ」と訳さないと意味が通らない。)

(3). マタイとヨハネの受難物語比較

マタイ福音書の受難物語によれば、「最後の晩餐」イコール「過越の食事、ニサンの15日」であり、その晩にイエス逮捕。引き続き大祭司カイファ邸での裁判。ペテロの否認とともに鶏が鳴いて、夜明けとともに総督ピラト邸へ。ピラトは早朝から彼らに対応を強いられ、もの凄い即決裁判。シモンに十字架を担がせゴルゴタへ行き、イエスを十字架につけた。その時刻についてはマタイ福音書では特に記述は無いが、そのネタ本であるマルコ福音書では朝9時と書いてある。共観福音書の語る、この日の午前中のスケジュールには、どう考えても無理がある。(その後、昼12時に全地が暗くなり、午後3時にイエス死去、そして埋葬と続く。)

イエスの裁判と処刑に関しては共観福音書よりも「ヨハネ福音書」のほうが、正確だし情報も細かい。

同書ではまず、晩餐後の夜中にイエスが捕まってまず連行されるのが、大祭司カイファ邸ではなくその舅の祭司長ハンナ邸であり、そこでイエスの処分がほぼ決まる。その後連行されたカイファ邸では何も記載事項が無い。ハンナとカイファの政治的関係が分かっていたヨハネ原著者の正確な記事である。ハンナはカイファの前任の大祭司で、退任後も祭司長として、かつカイファの舅として実権を握っていたのだ。(また、ペテロがハンナ邸の中庭に入れたのは、“ハンナの知り合いであるもう1人の弟子”の手引きによるものだった、との具体的な記述もある。その弟子以外にイエス側の人間はいないから、彼こそが「ペテロの否認」の証言者である。)

カイファ邸から総督ピラトの元へ連行した朝の記述では、ユダヤ人たちは「汚れることなく過越の食事をしたかったから」ピラト邸の敷地に入らなかつた、と書いてある。また、昼の12時にピラトが判決を下すところでは、「この日は過越の準備の日 Rüsttag in Ostern」だ、と書かれている。

そしてその翌日(=この日の日没から)は「大いなる安息日」、すなわち“大きな祭日(過越祭)が重なった安息日”だ。

イエスとその両脇の2人は「過越の準備の日」の午後に十字架につけられたのだが、日没で「過越祭かつ安息日」になってしまいう前に死んでもらうため、両脇の2人は脚を折られる。しかしイエスは既に息絶えていたので折られずに済んだという。ここまでスケジュール的に無理はない。

(よって、ヨハネ福音書第13章における最後の晩餐は、過越とは無関係ということになる。そこには聖体拝領の元となる話はない。その代わり、イエスが弟子たちの足を洗う話がある。=洗足の木曜日。)

ただし、イエスの最後の言葉は、マルコ・マタイ両福音書にある「我が神よ、どうして私をお見捨てになったのですか」が“歴史的事実”である。

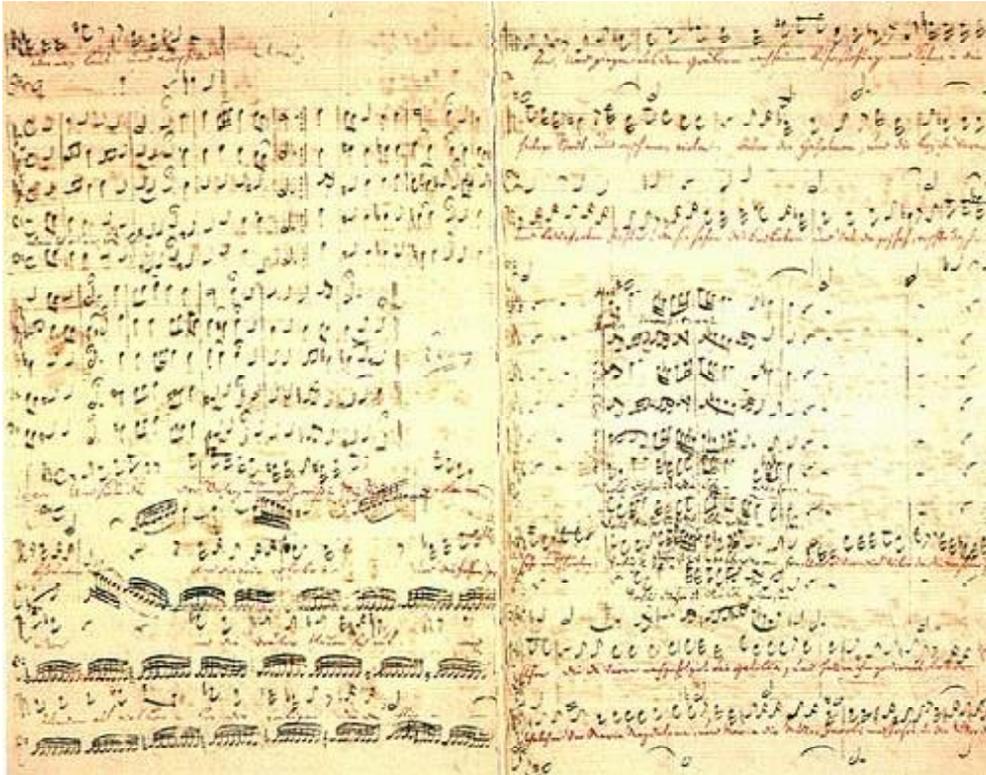
イエスが神に疑問を投げかけるという問題発言を、わざわざキリスト教会が創作するはずがない。(イエスは詩篇を唱えたのだ、という説があるが、マルコ福音書ではアラム語で書かれていることから、その説は成り立たない。)

教会にとって都合が悪い言葉なのに、それが残っているというのは、とりもなおさずそれが真実の言葉だったからだ。ルカの優等生発言や、ヨハネの神秘的な言葉のほうが「作り話」なのである。

(4). 「マタイ受難曲」の中の“十字架”

バッハの清書スコアにおいて、「まことに彼は神の子であった」という Nr.63b (旧全集では Nr.73)の合唱のページは、その合唱部分をページの中央にぎっしり詰めて書いて、スコアの風景が十字架に見えるように“デザイン”されている。

右ページ中段にその2小節の合唱が詰めて書かれており、十字架の幹のように見える。(左ページ下の細かい音符は地震の場面。)



また、第2部中核部分の楽曲配列では、キアスムス(交叉配列法)というキリストの頭文字Xに由来する伝統的象徴技法が用いられている。

	Nr.36a	……ホ短調
—	Nr.36b 合唱 I II「この男は死罪に値する！」	
—	Nr.36d 二重合唱「言い当ててみろ、キリストよ！」	
	Nr.37 コラール「誰がこのようにあなたを打ったのか」	……ヘ長調
—	Nr.38b 合唱 II「お前もあの男の仲間だ」	
	Nr.39 アルト・アリア「憐れみ給え、神よ」	
—	Nr.41b 二重合唱「我々に何の関係があるか、自分で始末しろ」	
—	Nr.45b 合唱 I II「十字架につけよ」	……イ短調
	Nr.46 コラール「何と驚くべき刑罰」	
	Nr.49 ソプラノ・アリア「愛の御心から」	……イ短調
—	Nr.50b 合唱 I II「十字架につけよ」	……口短調
—	Nr.50d 合唱 I II「その血は我々と我々の子孫を襲えばよい」	
	Nr.51 アルト・レチタティーヴォ「憐れみ給え、神よ」	
	Nr.52 アルト・アリア	
—	Nr.53b 二重合唱「ごきげんよう、ユダヤの王よ」	
	Nr.54 コラール「おお、血と傷にまみれた御頭」	……ヘ長調
—	Nr.58b 二重合唱「神殿を打ち壊し三日で建てる者よ」	
—	Nr.58d 二重合唱「他人を救ったのに、自分は救えない」	……ホ短調

ドイツの音楽学者フリードリヒ・スメントは、1926年に「バッハのヨハネ受難曲 — その構造の研究」において、ヨハネ受難曲第2部には前後対称の楽曲配分による心臓部を持つ、と指摘。さらに1928年には「バッハのマタイ受難曲 — 1750年までの作品史の研究」において、同じアイデアをマタイ受難曲にも使い、その中心は Nr.49 のソプラノ・アリア「愛の御心から」である、とした。しかし、その構造はヨハネほどの強固さは無いとも述べている。

参考: 磯山雅「マタイ受難曲」、田川建三「イエスという男」『書物としての新約聖書』「新約聖書 訳と註」